

2015 年秋季年会

年会プログラム

於 甲南大学

2015 年 9 月 9 日 (水) ~ 9 月 11 日 (金)

日本天文学会

日本天文学会 2015 年秋季年会プログラム

期 日 2015 年 9 月 9 日 (水) ~ 9 月 11 日 (金)

場 所 甲南大学 (兵庫県)

電 話 090 - 4387 - 6893 <使用期間 2015 年 9 月 8 日 (火) ~ 9 月 11 日 (金) >

月日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
9月9日 (水)	A			N. 恒 星				N. 恒 星		天文教育 フォーラム (A 会場)	理事会	
	B			Y. 教育・他				Y. 教育・他/P2. 星・惑星				
	C			U. 宇 宙 論				M. 太 陽				
	D			J2. 高密度星				J1. 高密度星				
	E		受付	L. 太陽系/X. 銀河形成	昼 休 み	ポスター		X. 銀河形成				
	F			T. 銀 河 団				S. 銀 河 核				
	G			A. C T A				A. C T A				
	H			R. 銀 河				R. 銀 河				
	I			V1. 観測機器				V1. 観測機器				
9月10日 (木)	A		P1. 星・惑星	昼 休 み (代議員総会)	ポスター		P1. 星・惑星	会員 全体集会 (G 会場)	懇親会			
	B		P2. 星・惑星				P2. 星・惑星					
	C		M. 太 陽				M. 太 陽					
	D		J1. 高密度星				J1. 高密度星					
	E	受付	X. 銀河形成				X. 銀河形成					
	F		S. 銀河核				Q. 星間現象					
	G		K. 超新星爆発				K. 超新星爆発					
	H		R. 銀河/V2. 観測機器				V2. 観測機器					
	I		V1/V3. 観測機器				V3. 観測機器					
9月11日 (金)	A		P1. 星・惑星	昼 休 み	ポスター		特別セッション (G 会場)					
	B		P2. 星・惑星									
	C		M. 太 陽									
	D		J1. 高密度星									
	E	受付	X. 銀河形成									
	F		Q. 星間現象						Q. 星間現象			
	G		B. S K A						B. S K A			
	H		V2. 観測機器						V2. 観測機器			
	I		V3. 観測機器						V3. 観測機器			

A 会場 : 1 号館 2F
B 会場 : 1 号館 2F
C 会場 : 1 号館 3F
D 会場 : 1 号館 3F
E 会場 : 1 号館 3F

F 会場 : 1 号館 4F
G 会場 : 1 号館 4F
H 会場 : 10 号館 1F
I 会場 : 10 号館 1F

受 付 : 3 号館 1F
ポスター会場 1-1,1-2,1-3 : 3 号館 3F
ポスター会場 2-1,2-2,2-3 : 3 号館 3F
ポスター会場 3-1,3-2,3-3 : 3 号館 4F
ポスター会場 4-1,4-2,4-3 : 3 号館 4F
展示コーナー : 受付
会 議 室 : 3 号館 7F
懇 親 会 : カフェパンセ

◎講演数

講演数：合計 636

(口頭講演 (a)：422、ポスター講演 (b)：164、ポスター講演 (c)：50)

◎参加登録について (参加者は、当日必ず参加登録をしてください。)

2011年秋学会より、講演登録費は、講演申込時にお支払いいただく事になっています。

○参加費用

	会 員	非会員
参 加 費	3,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込み)
(但し講演ありの場合、参加費は無料)		
講 演 登 録 費	3,000 円 (不課税)	10,000 円 (消費税込み) (1 講演につき)
(但し事前支払がない場合は、会員 4,000 円、非会員 11,000 円)		
年 会 予 稿 集	2,000 円 (消費税込み)	2,000 円 (消費税込み) (購入希望者のみ)

○参加登録受付場所：受付 3 号館 1F

○参加登録受付時間：9 月 9 日 10：00～16：00

9 月 10 日 09：00～16：00

9 月 11 日 09：00～13：30

※参加費は、会期中に受付にて忘れずにご納付ください。

※参加費用支払い時に渡される領収書は、再発行はできませんので、大切に保管してください。

※講演登録者は、講演申し込み後にキャンセル等しても、講演登録費の返金はいたしません。

※懇親会に参加される方は、隣の懇親会専用の受付にて懇親会の参加費をお支払いください。

◎講演に関する注意

1. 口頭発表は 9 会場で行われます。口頭講演 (添字 a) は、口頭発表 9 分、質疑応答 3 分です。ポスター講演 (添字 b) は、口頭発表 3 分、3 講演で 12 分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. ポスター発表 (添字 b)、(添字 c) は、9 月 9 日の 10：00 から 9 月 11 日の 13：30 までポスター会場の指定された場所に掲示できます。終了後は速やかに撤去してください。ポスターサイズは縦 180 cm×横 90 cm です。
3. 講演には液晶プロジェクターをご使用ください。液晶プロジェクターは、セッション開始前に PC の接続を確認してください。講演時間は、直前の講演者が降壇した時点から計り始めます。迅速に講演が始められるよう、次の講演者は前の講演中に PC を接続しておいてください。

◎会期中の行事

月 日	時 間	会 場	行 事 名
9月9日 (水)	17:15～18:45	A会場	天文教育フォーラム
9月10日 (木)	16:00～17:00	G会場	会員全体集会
	17:30～	カフェパンセ	懇親会
9月11日 (金)	15:30～17:00	G会場	特別セッション
9月12日 (土)	13:00～16:00	甲友会館	公開講演会

◎会合一覧表

月 日	時 間	会 場	会 合 名	一般参加可否
9月9日 (水)	13:00～14:00	E会場	太陽研究者連絡会・運営委員会	D
	19:00～20:00	会議室	理事会	D
9月10日 (木)	11:30～12:30	B会場	高エネルギー宇宙物理連絡会報告会	B
	11:30～12:30	C会場	太陽研究者連絡会・報告会	C
	11:30～12:30	D会場	理論天文学宇宙物理学懇談会・報告会	C
	11:30～12:30	E会場	代議員総会	D
9月11日 (金)	11:30～12:30	B会場	宇宙電波懇談会総会	C
	11:30～12:30	F会場	光学赤外線天文連絡会総会	C
	11:30～12:30	G会場	天文・天体物理若手の会総会	C

※一般参加可否の説明（オープン化の程度）

- A: 誰でも大歓迎で是非来てほしい
- B: 興味を持った人には広く門戸を開いている
- C: 関係グループ向けのものだが部外者も特に拒みはしない
- D: 関係者のみにクローズした非公開の会合

◎天文教育フォーラム：天文学会員のためのキャリア支援を考える

共催：天文教育普及研究会 後援：日本学術会議物理学委員会 IAU 分科会

日 時：2015年9月9日（水）17：15～18：45

場 所：A会場

概 要： キャリア支援の必要性は広く認識されてきています。キャリアに関する課題は、個人個人の問題だけでなく学会にとっても重要な課題と位置づけられます。将来設計をたてる上で、展望の明るい分野はその魅力を増し、その分野を志す人そのものが増えていきます。これは学会の発展だけでなく、サイエンスの発展においても大きく貢献していきます。現在の若手、次世代の若手にとって魅力ある分野や学会にしていくために、キャリア支援について考えていきたいと思えます。

日本天文学会においても今年度キャリア支援委員会が立ち上がりました。これを機に、学会員が抱えている課題等をしっかりと把握し検討していくことが必要です。そこで、今回の天文教育フォーラムでは、学会員が抱えるキャリア形成・キャリア支援に関わる課題や要望を把握し、その後、討論を通して学会員からご意見やアイデアを幅広く提供して頂くことを目的としています。

実行委員：大山真満¹（滋賀大学）、石井貴子¹（京都大学）、木村かおる^{1,2}（科学技術館）、林左絵子²（国立天文台）、富田晃彦²（和歌山大学）、岡朋治²（慶応大学）、奥村幸子^{2,3}（日本女子大学）、古屋玲³（徳島大学）、馬場俊介³（宇宙航空研究開発機構）、高梨直紘⁴（東京大学）、古屋昌美⁴（こども文化科学館）

1: 日本天文学会天文教育委員会、2: 日本天文学会男女共同参画委員会、

3: 日本天文学会キャリア支援委員会、4: 天文教育普及研究会

◎特別セッション：SKA 計画の概要と SKA が拓く天文学

日 時：2015年9月11日（金）15：30～17：00

場 所：G会場

概 要： Square Kilometre Array (SKA) は次世代の国際大型電波干渉計計画です。研究領域は多岐にわたり、宇宙再電離、パルサーと重力理論、宇宙論、銀河進化、宇宙磁場、宇宙生命などがメインテーマとして挙げられています。この夏には、SKA 第1期の大規模な計画修正も盛り込んだ計画の概要が公開される予定です。そこで、この機会に、日本の天文コミュニティの皆様、SKA の目指すサイエンスと、その性能・技術的課題について十分に理解していただくため、SKA 機構長の Philip Diamond 氏を招いた特別セッションを開催致します。セッションでは Diamond 氏による資金計画、運用方針などを含む SKA 計画の概要に関する講演と、SKA-JP コンソーシアムが期待しているサイエンスの成果についての報告があります。

世話人：杉山直、市来淨與（名古屋大学）、小林秀行、本間希樹（国立天文台）、高橋慶太郎（熊本大学）、半田利弘、今井裕、中西裕之、赤堀卓也（鹿児島大学）

◎日本天文学会公開講演会

テ ー マ：元素の起源 — 宇宙の中のわたしたち人類 —

日 時：2015年9月12日(土) 13:00～16:00 (開場 12:30)

場 所：甲南大学・岡本キャンパス・甲友会館

対 象：中学生以上・一般向け

趣 旨：「私たち人類はどこからきたのか」という普遍的な問いは古代から問い続けられ、いろいろな側面から今も問い続けられています。自然科学は物質としての人類を形作る要素は元素であることを明らかにしましたが、ではこの元素はいったいどこからやって来たのでしょうか？この講演会では、3人の第一線の研究者が最新の研究に基づき、この問いに対する現代科学の答えについて平易に解説していきます。

講 演 1：「元素とは何か」 宇都宮弘章 (甲南大学理工学部物理学科)

この世界を形作る様々な元素は、その中心に原子核をもち、その原子核が元素の特性を決定します。この講演では原子核物理学者の立場から、原子核の基本的な性質、元素を生み出すいろいろな原子核の反応について解説します。

講 演 2：「元素が生まれる時」 田中雅臣 (自然科学研究機構国立天文台理論研究部)

星はその内部で元素を生み出すことによって輝いています。やがて星は大爆発を起こし、爆発によって新たな元素を生み出すとともに、内部で生まれた元素を宇宙空間に放出します。この講演では、特に星の爆発とそれに伴う元素の合成について平易に解説します。

講 演 3：「元素はめぐる」 梅村雅之 (筑波大学計算科学研究センター)

我々の身の回りにある元素は、宇宙で星が輝くことにより、その内部での核融合によって生み出されたと考えられています。この講演では、宇宙の中で元素がどのように生まれ、循環し、生命の誕生とどのように関わってきたのかを、平易に解説します。

定 員：350名。入場無料・参加申し込み不要です。当日ご自由にお越しください。ただし定員を超えた場合、会場の都合で入場を制限する場合がございます。

秋季年会会場 甲南大学岡本キャンパスのご案内



アクセス

JR 神戸線摂津本山駅下車 北西へ徒歩約 10 分

各停のみ停車。大阪方面からは芦屋で快速から乗換
三宮方面からは住吉で快速から乗換
住吉からも徒歩で 20 分程度

阪急神戸線岡本駅下車 北西へ徒歩約 10 分

特急も停車する。

甲南大学のページ

<http://www.konan-u.ac.jp/access/>

もご参照ください。

甲南大学岡本キャンパスマップ



キャンパス内全面禁煙です。喫煙は指定の場所をお願いいたします。

無線 LAN は Eduroam のアカウントのみ接続可能です。Eduroam 参加機関であれば取得できますので、あらかじめ取得してきてください。取得できない場合には会議中の期間限定アカウントを受付付近で発行いたします。

Eduroam 参加機関： <http://www.eduroam.jp/participants/siteinfo.html>

無線 LAN がつながる場所は

1号館 3F ラウンジ，5号館 1F カフェパンセ，10号館 1F ラウンジ です。

講義室ではつながりません。

ATM は生協入口とファミリーマート内にあります。

会場案内図



会場案内図



10号館



※天文学会理事会の会議室は3号館7階の第3会議室です。

口頭セッション 9月9日(水)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【恒星】	【教育・他】	【宇宙論】	【高密度星】	【太陽系/銀河形成】	【銀河団】	【CTA】	【銀河】	【観測機器】
11:00	N01a	Y01a	U01a	J201a	L01a	T01a	A01r) A09a	R01a	V101a
11:12	N02a	Y02a	U02a	J202a	L02a	T02a		R03a	V102a
11:24	N03a	Y03a	U03a	J203a	L03a	T03a		R04a	V103a
11:36	N04a	Y04a	U04a	J204a	L04b	T04a		R05a	V104a
11:48	N05a	Y05b, Y06b Y09b	U05a	J205a	X01a	T05a		R06a	V105a
12:00	N06a	Y12a	U06a	J206a	X02a	T06a		R07a	V106a
12:12	N07a	Y13a	U07a	J208a	X03a	T07a		R08a	V107a
12:24	N08a	Y14a	U08a	J209a	X04a	T08a		R09b-R11b	V108b-V110b
12:36	N09b-N11b	Y15a	U10a	J210a	X05b-X07b	T09a		R12a	V111a
12:48	N12b, N13b	Y16b-Y18b	U11a	J211a	-	T10a		R13a	V112a
13:00	-	Y19b, Y20b	U12b	J212b, J213b	-	T11a	-	V113a	
13:12	-	-	-	-	-	T12b	-	-	
13:00	昼休み								
14:00	ポスター								
開始時刻	【恒星】	【教育・他/星・惑星】	【太陽】	【高密度星】	【銀河形成】	【銀河核】	【CTA】	【銀河】	【観測機器】
15:00	N14a	Y21a	M01a	J101a	X09a	S01a	A10r) A17a	R14a	V119a
15:12	N15a	Y22a	M02a	J102a	X10a	S02a		R15b-R17b	V120a
15:24	N16a	Y23a	M03a	J103a	X11a	S03a		R18b-R20b	V121a
15:36	N17a	Y24a	M04a	J105a	X12a	S04a		R21a	V122a
15:48	N18a	Y25a	M05a	J106a	X13a	S05a		R22a	V123a
16:00	N19a	P201a	M06a	J107a	X14b-X16b	S06a		R23a	V124a
16:12	N20a	P202a	M07a	J108a	X17a	S07a		R24b-R26b	V125b-V127b
16:24	N21a	P203a	M08b-M10b	109b-J111b	X18a	S08a		R27a	V128a
16:36	N22a	P204a	M11b-M13b	J112a	X19a	S09a		R28a	V129a
16:48	N23a	P205a	M14b-M16b	J113a	-	S10a		R29a	V130b-V132b
17:15	天文教育フォーラム (A会場)								
19:00	理事会								

口頭セッション 9月10日(木)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【星・惑星】	【星・惑星】	【太陽】	【高密度星】	【銀河形成】	【銀河核】	【超新星爆発】	【銀河/観測機器】	【観測機器】
09:30	P101a	P206a	M20a	J114a	X20a	S11b-S13b	K01a	R30a	V133a
09:42	P102a	P207a	M21a	J115a	X21a	S15a	K02a	R33a	V134b-V136b
09:54	P103a	P208a	M22a	J116a	X22a	S16a	K03a	R34a	V137b-V139b
10:06	P104a	P209b-P211b	M23a	J117a	X23b-X25b	S17a	K04a	R35a	V140a
10:18	P105a	P212a	M24a	J118a	X26a	S18a	K05a	V201a	V141a
10:30	P106a	P213a	M25a	J119a	X27a	S19a	K06a	V202b-V204b	V142b-V144b
10:42	P107a	P214a	M26a	J120a	X28a	S20a	K07a	V205a	V145a
10:54	P108a	P215b-P217b	M27a	J121a	X29a	S21a	K08a	V206b-V208b	V301a
11:06	P109a	P219b-P221b	M28a	J122a	X30a	S22a	K09a	V209a	V302b-V304b
11:18	P110b-P112b	P222b-P224b	M29a	J124b, J125b	-	S23b-S25b	K10a	V210a	V305b-V307b
11:30	P113b, P114b	-	-	-	-	S26b	K11b	-	-
11:30	昼休み (代議員総会) (E会場)								
12:30	ポスター								
開始時刻	【星・惑星】	【星・惑星】	【太陽】	【高密度星】	【銀河形成】	【星間現象】	【超新星爆発】	【観測機器】	【観測機器】
13:30	P115a	P226a	M30a	J126a	X31a	Q01a	K12a	V211a	V308a
13:42	P116a	P227a	M31a	J127a	X32a	Q02a	K13a	V212b-V214b	V309a
13:54	P117a	P228a	M32a	J128a	X33a	Q03a	K14a	V215b-V217b	V310a
14:06	P118a	P229a	M33a	J129a	X34a	Q04b-Q06b	K15a	V218a	V311a
14:18	P119b-P121b	P230a	M34a	J130b-J132b	X35a	Q07a	K16a	V219b-V221b	V312b-V314b
14:30	P122a	P231a	M35a	J135a	X36a	Q08b-Q10b	K17a	V224a	V315a
14:42	P123a	P232a	M36a	J136a	X37b-X39b	Q11a	K18a	V225a	V316a
14:54	P124a	P233a	M37a	J137a	X40b-X42b	Q12a	K19a	V226a	V317b-V319b
15:06	P125a	P234a	M38a	J138a	X43a	Q13a	-	V227a	V320b-V322b
15:18	P126a	P235a	M39a	J139a	X44a	Q14b, Q15b	-	V228b-V230b	V324a
15:30	P127b-P129b	-	-	-	-	-	-	V231b-V233b	V325a
16:00	会員全体集会 (G会場)								
17:30	懇親会 (カフェパンセ)								

口頭セッション 9月11日(金)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【星・惑星】	【星・惑星】	【太陽】	【高密度星】	【銀河形成】	【星間現象】	【SKA】	【観測機器】	【観測機器】
09:30	P130a	P236a	M40a	J140a	X45a	Q16a	B01r) B03r	V234a	V326a
09:42	P131a	P237a	M41a	J141a	X46a	Q17a		V235a	V327a
09:54	P132a	P238a	M42a	J142a	X47a	Q18a		V236a	V328a
10:06	P133a	P239a	M43a	J143a	X48a	Q19b-Q21b		V237a	V329a
10:18	P134a	P240a	M44a	J144a	X49a	Q23a		V238a	V330a
10:30	P135a	P241a	M45a	J145a	X50a	Q24b-Q26b		V239a	V331a
10:42	P136a	P242a	M46a	J146a	X51a	Q27a		V240a	V332a
10:54	P137a	P243a	M47a	J147a	X52a	Q28a		V241a	V333a
11:06	P138a	P244a	-	J148a	-	Q29a		V242a	V334a
11:18	P139a	-	-	-	-	Q30a		V243b-V245b	V335a
11:30	P140a	-	-	-	-	-	-	V246a	V336a
11:30	昼休み								
12:30	ポスター								
開始時刻						【星間現象】	【SKA】	【観測機器】	【観測機器】
13:30						Q31a	B04a) B13a	V247a	V337a
13:42						Q32a		V248a	V338a
13:54						Q33a		V249a	V339a
14:06						Q34a		V250a	V340a
14:18						Q35a		V251a	V341a
14:30						Q36a		V252a	V342a
14:42						Q37a		V253a	V343a
14:54						Q38a		V254a	V344a
15:06						Q39a		V255a	V345a
15:18						-		V256a	-
15:30	特別セッション (G会場)								

ポスターセッション 9月9日(水) ~ 9月11日(金)

ポスター会場 (1-1)

【A. CTA】(6)

A18c A19c A20c A21c A22c
A23c

【P2. 星・惑星】(14)

P209b P210b P211b P215b P216b
P217b P218c P219b P220b P221b
P222b P223b P224b P225c

ポスター会場 (1-2)

【P1. 星・惑星】(11)

P110b P111b P112b P113b P114b
P119b P120b P121b P127b P128b
P129b

【S. 活動銀河核】(10)

S11b S12b S13b S14c S23b
S24b S25b S26b S27c S28c

ポスター会場 (1-3)

【Q. 星間現象】(15)

Q04b Q05b Q06b Q08b Q09b
Q10b Q14b Q15b Q19b Q20b
Q21b Q22c Q24b Q25b Q26b

ポスター会場 (2-1)

【M. 太陽】(12)

M08b M09b M10b M11b M12b
M13b M14b M15b M16b M17c
M18c M19c

【N. 恒星】(5)

N09b N10b N11b N12b N13b

ポスター会場 (2-2)

【J1. 高密度星】(12)

J104c J109b J110b J111b J123c
J124b J125b J130b J131b J132b
J133c J134c

【J2. 高密度星】(3)

J207c J212b J213b

【K. 超新星爆発】(2)

K11b K20c

ポスター会場 (2-3)

【L. 太陽系】(3)

L04b L05c L06c

【Y. 天文教育・他】(12)

Y05b Y06b Y07c Y08c Y09b
Y10c Y11c Y16b Y17b Y18b
Y19b Y20b

【PDL】

ポスターセッション 9月9日(水) ~ 9月11日(金)

ポスター会場 (3-1)

【V1. 観測機器】 (18)

V108b V109b V110b V114c V115c
 V116c V117c V118c V125b V126b
 V127b V130b V131b V132b V134b
 V135b V136b V137b

ポスター会場 (3-2)

【V1. 観測機器】 (9)

V138b V139b V142b V143b V144b
 V146c V147c V148c V149c

【V2. 観測機器】 (9)

V202b V203b V204b V206b V207b
 V208b V212b V213b V214b

ポスター会場 (3-3)

【V2. 観測機器】 (18)

V215b V216b V217b V219b V220b
 V221b V222c V223c V228b V229b
 V230b V231b V232b V233b V243b
 V244b V245b V257c

ポスター会場 (4-1)

【R. 銀河】 (16)

R02c R09b R10b R11b R15b
 R16b R17b R18b R19b R20b
 R24b R25b R26b R31c R32c
 R36c

ポスター会場 (4-2)

【X. 銀河形成】 (16)

X05b X06b X07b X08c X14b
 X15b X16b X23b X24b X25b
 X37b X38b X39b X40b X41b
 X42b

【B. SKA】 (3)

B14c B15c B16c

ポスター会場 (4-3)

【V3. 観測機器】 (16)

V302b V303b V304b V305b V306b
 V307b V312b V313b V314b V317b
 V318b V319b V320b V321b V322b
 V323c

【T. 銀河団】 (1)

T12b

【U. 宇宙論】 (3)

U09c U12b U13c

A. ガンマ線天文台 CTA で切り拓く次世代の高エネルギー天文学

9月9日(水) 午前・G会場			
11:00	A01r	高エネルギーガンマ線天文学の新展開・(24) 手嶋政廣(東京大学)	16:00 A13a Do blazars have an additional spectral component in the TeV band?・(12) Yoshiyuki Inoue (ISAS/JAXA)
11:24	A02r	多波長観測で切り拓く高エネルギー天文学・(24) 福井康雄(名古屋大学)	16:12 A14a Fermi-LAT and multi-wavelength observation of new TeV-emitting blazar S4 0954+65 during bright optical flare in 2015 February・(12) Yasuyuki Tanaka (Hiroshima University)
11:48	A03a	CTAで探る宇宙線の起源:RX J1713.7-3946のガンマ線シミュレーション・(12) 佐野栄俊(名古屋大学)	16:24 A15a ガンマ線短時間変動のモデル化による活動銀河核ジェットの放射への制限・(12) 斉藤新也(立教大学)
12:00	A04a	チャンドラ衛星を用いた超新星残骸RX J1713.7-3946の膨張測定・(12) 辻直美(立教大学)	16:36 A16a 低光度活動銀河核での乱流加速と高エネルギー粒子放射・(12) 木村成生(東北大学)
12:12	A05a	HESSJ1731-347におけるガンマ線起源の解明・(12) 福田達哉(名古屋大学)	16:48 A17a 最高エネルギー宇宙線観測の現状と今後・(12) 木戸英治(東京大学)
12:24	A06a	超新星残骸W28領域におけるガンマ線放射と星間ガス・(12) 吉池智史(名古屋大学)	A18c 空気シャワーモンテカルロシミュレーションによるCTAのデザイン研究と観測性能 稲田知大(東京大学)
12:36	A07a	星間水素ガスの正確な定量とガンマ線データの関係・(12) 岡本竜治(名古屋大学)	A19c CTA計画大口径望遠鏡初号機用PMTの性能と品質管理 永吉勤(埼玉大学)
12:48	A08a	CTAで見るCrab Flare・(12) 齋藤隆之(京都大学)	A20c CTA大口径望遠鏡 焦点面検出器の構造 掃部寛隆(甲南大学)
13:00	A09a	CTA Transient Factory: 広視野突発天体サーベイの展望・(12) 井上進(理化学研究所)	A21c CTA大口径望遠鏡データ収集システムの開発 増田周(京都大学)
9月9日(水) 午後・G会場			
15:00	A10r	ガンマ線天文学の課題と今後への期待: 理論的観点から・(24) 高原文郎(大阪大学)	A22c CTA大口径望遠鏡の分割鏡の結像性能評価 長紀仁(茨城大学)
15:24	A11r	Observational Cosmology through high and very high energy gamma rays・(24) Daniel Mazin (Univ. of Tokyo)	A23c CTA小口径望遠鏡用焦点面カメラの開発 田島宏康(名古屋大学)
15:48	A12a	Sgr A*の過去の活動を起源とする銀河系中心からのガンマ線放射・(12) 藤田裕(大阪大学)	

B. Transformational science and technology with the SKA

9月11日(金) 午前・G会場			
09:30	B01r	Engineering Challenges in SKA1 and SKA2・(40) Tim Cornwell (SKA Organization) [※代理講演: Peter Dewdney (SKA Organization)]	15:06 B12a SKAによる電波源高精度位置計測に基づく天の川銀河・局所銀河群の動力学的構造の探求・(12) 今井裕(鹿児島大学)
10:10	B02r	The MWA Epoch of Re-ionisation Experiment・(40) Rachel Webster (University of Melbourne)	15:18 B13a 広帯域フィードの開発(IX)・(12) 氏原秀樹(情報通信研究機構)
10:50	B03r	Studying Gravity with Pulsars and the SKA・(40) Evan Francis Keane (SKA Organisation)	B14c ミンコフスキー汎関数による宇宙再電離期解析 吉浦伸太郎(熊本大学)
			B15c 原初磁場を考慮した大規模構造形成 山崎大(茨城大学)
			B16c 銀河ガス円盤シミュレーションを用いた渦状銀河磁場の観測的可視化 町田真美(九州大学)
9月11日(金) 午後・G会場			
13:30	B04a	SKA時代に向けた宇宙磁場研究の進展・(12) 町田真美(九州大学)	
13:42	B05a	SKAで探るミッシングバリオンと銀河間磁場・(12) 赤堀卓也(鹿児島大学)	
13:54	B06a	SKA-JP EoRサイエンスワーキンググループの取り組み・(12) 長谷川賢二(名古屋大学)	
14:06	B07a	21cm線観測で探る初代星形成と宇宙再電離・(12) 矢島秀伸(東北大学)	
14:18	B08a	SKAにおける宇宙論・(12) 山内大介(東京大学)	
14:30	B09a	将来の21cm線放射の観測による暗黒エネルギーの性質の解明・(12) 大山祥彦(東京大学)	
14:42	B10a	Formation, Evolution, and Revolution of Galaxies by SKA・(12) 竹内努(名古屋大学)	
14:54	B11a	SKA-Japan パルサーグループ活動報告・(12) 高橋慶太郎(熊本大学)	

J1. 高密度星

9月9日(水) 午後・D会場			
15:00	J101a 「すざく」によるブラックホール連星 Cygnus X-1 のソフト状態におけるハード テイル成分の解析 奥田和史 (東京大学)	16:36	J112a 位置天文観測による大質量 X 線連星 の高密度星質量決定 山口正輝 (国立天文台)
15:12	J102a MAXI, Swift, RXTE による Cyg X-3 の クエンチ状態と高電離散乱体 三原建弘 (理化学研究所)	16:48	J113a 質量降着を伴わない星質量ブラック ホール連星の位置天文衛星による検 出数予測と理論モデルへの示唆 川中宣太 (東京大学)
15:24	J103a GX 339-4 の Very high state における 円盤コロナおよび内縁流の幾何学的 配置の観測的決定 久保田あや (芝浦工業大学)	9月10日(木) 午前・D会場	
	J104c ブラックホール候補天体 V4641 Sgr の すざく衛星による詳細 X 線観測 山岡和貴 (名古屋大学)	09:30	J114a TeV ガンマ線連星 HESS J0632+057 における Be 星とコンパクト天体の相互 作用 河野貴文 (広島大学)
15:36	J105a High/Soft State にあるブラックホー ル X 線連星 4U 1630-47 の「すざく」 NuSTAR 同時観測 堀貴郁 (京都大学)	09:42	J115a TeV ガンマ線連星 HESS J0632+057 の IRSF/SIRIUS・かなた/HONIR を 用いた近赤外線長期モニタリング観測 千榊翔 (東海大学)
15:48	J106a MAXI/GSC と Swift/BAT で調べた中 性子星低質量 X 線連星系のソフト状 態でのコンプトン雲の大きさ 浅井和美 (理化学研究所)	09:54	J116a ガンマ線連星系 PSRB1259-63/ LS2883 近星点通過時の近赤外線光 度変動 河内明子 (東海大学)
16:00	J107a Be 星 - パルサー連星系 PSR B1259- 63 の軌道位相に対する X 線光度 小野雄貴 (東京工業大学)	10:06	J117a TeV ガンマ線連星系 PSR B125963/ LS 2883 において Be 星ガス円盤の密 度分布が X 線放射に与える影響 小早川達也 (東海大学)
16:12	J108a X 線パルサー GX 1+4 と 4U 1626-67 のパルス波形 鈴木大朗 (立教大学)	10:18	J118a ULX M82 X-2 における降着モード (2) 鴈野重之 (九州産業大学)
16:24	J109b 「すざく」衛星による低質量 X 線連星 Sco X-1 の硬 X 線放射の観測 岡田千穂 (広島大学)	10:30	J119a 一般相対論的輻射磁気流体計算によ る円盤コロナの形成について 高橋博之 (国立天文台)
16:24	J110b Be 型 X 線連星のノーマルアウトパー ストの定量的評価 中島基樹 (日本大学)	10:42	J120a 3D GRMHD 数値実験によるブラック ホール降着円盤とジェット形成 水田晃 (理化学研究所)
16:24	J111b X線連星パルサー Her X-1 の連続放 射スペクトルの新モデルによる解析 近藤恵介 (総合研究大学院大学)	10:54	J121a コンパクト天体連星合体からの質量放出 関口雄一郎 (東邦大学)
		11:06	J122a 初期宇宙における多重ブラックホール の合体過程の研究 田川寛通 (東京大学)

	J123c 2M ₀ の最大質量を満足する高密度星の熱的進化モデル 野田常雄 (久留米工業大学)	J134c 誘導コンプトン散乱の天体現象への応用に向けて 田中周太 (東京大学)
11:18	J124b 超臨界降着による超巨大ブラックホールの形成条件 稲吉恒平 (Columbia Univ.)	14:30 J135a 「すざく」によるマグネター 1E 1547.0-5408 の自由歳差運動の検出 (2) 牧島一夫 (理化学研究所)
11:18	J125b 相対論粒子シミュレーションのための分布関数生成アルゴリズム 銭谷誠司 (国立天文台)	14:42 J136a マグネター 1E 1841-045 および 1RXS J170849.0-400910 の「すざく」による硬 X 線パルス復調解析 村上浩章 (東京大学)
9 月 10 日 (木) 午後・D 会場		
13:30	J126a NGHXT で狙うブラックホールのサイエンス II 信川正順 (京都大学)	14:54 J137a 「すざく」衛星によるマグネターの X 線定常放射のエネルギー依存性のある強度揺らぎの研究 (2) 中川友進 (宇宙航空研究開発機構)
13:42	J127a MAXI J1957+032 の発見と MAXI が検出した 2015 年度前半の突発現象 根来均 (日本大学)	15:06 J138a チャンドラ衛星を用いた中性子星の活動性磁場の探査 渡邊瑛里 (山形大学)
13:54	J128a ブラックウイドウ パルサー 2FGL J1311.6-3429 からの可視光輝線検出 谷津陽一 (東京工業大学)	15:18 J139a 普通の電波パルサーにみられるマグネター様の磁場散逸の探査について 柴田晋平 (山形大学)
14:06	J129a 若いパルサー PSR J2022+3842 の Fermi 衛星による γ 線観測 大内遙河 (東京工業大学)	
14:18	J130b X 線新星の降着円盤の状態変化と絶対光度の関係の検証 増満隆洋 (日本大学)	
14:18	J131b Ghosh & Lamb の式による中性子星の質量・半径および距離の推定 高木利紘 (理化学研究所 / 日本大学)	
14:18	J132b 325MHz 帯におけるカニパルサー GRP の dispersion measure と decay time の時間変動 廣島渚 (東京大学)	
	J133c Crab パルサー GRP 間の相関: 太陽風シンチレーション効果の可能性 寺澤敏夫 (東京大学)	

J2. 高密度星

9月11日(金) 午前・D会場		9月9日(水) 午前・D会場	
09:30	J140a ガス層内の輻射輸送効果を考慮するとエディントン光度以下でも輻射圧で駆動される球対称風が吹くことができる! 福江純 (大阪教育大学)	11:00	J201a Soft X-ray Observation of the Prompt Emission of GRB100418A 今谷律子 (大阪大学)
09:42	J141a 輻射輸送を考慮した層雲の終端速度 増田剛大 (大阪教育大学)	11:12	J202a Fermi LAT で検出された GRB141207A の高エネルギーガンマ線放射 有元誠 (東京工業大学)
09:54	J142a ブラックホール風の見かけの光球と熱化面とスペクトル IV : 拡散効果 折橋将司 (大阪教育大学)	11:24	J203a 相対論的輻射媒介衝撃波の定常解 伊藤裕貴 (理化学研究所)
10:06	J143a ブラックホール近傍の強重力場による光度変化 大橋洋平 (早稲田大学)	11:36	J204a 相対論的乱流磁気リコネクションと相対論的 outflow の加速 高本亮 (東京大学)
10:18	J144a ブラックホールの曲がった時空の効果を直接観測する原理と方法2 齋田浩見 (大同大学)	11:48	J205a 母銀河の系統的分光観測で long Gamma-Ray Burst の発生条件に迫る 新納悠 (国立天文台)
10:30	J145a ブラックホールの回転による外向きの電磁エネルギー流の生成 小島康史 (広島大学)	12:00	J206a GRB collapsar モデルの親星依存性に関する理論的研究 早川朝康 (京都大学)
10:42	J146a 電磁場によるブラックホール回転エネルギーの引き抜きの因果的理解 小出眞路 (熊本大学)	J207c MITSuME 明野望遠鏡によるガンマ線バースト残光の観測 (2012-2015) 藤原太智 (東京工業大学)	
10:54	J147a ブラックホール磁気圏における磁気流体波の伝播 - II 高橋真聡 (愛知教育大学)	12:12	J208a 短時間ガンマ線バーストに伴う軟 X 線超過成分の統計的解析 加川保昭 (金沢大学)
11:06	J148a バイナリーブラックホールへの超臨界降着 小川拓未 (京都大学)	12:24	J209a 中性子星連星合体による重力波の X 線対応天体 木坂将大 (KEK 素核研)
		12:36	J210a モンテカルロ法を用いた超軟 X 線天体 CAL87 の X 線スペクトルシミュレーション (II) 和田師也 (ISAS/JAXA, 東京大学)
		12:48	J211a 「すざく」観測による激変星 V1223 Sagittarii の X 線スペクトル解析 和田有希 (東京大学)
		13:00	J212b X 線天文衛星すざくによる γ Cas の観測とその放射機構の推定 森鼻久美子 (兵庫県立大学西はりま天文台)
		13:00	J213b 超相対論的流体 - 輻射輸送連成計算に向けた検証 石井彩子 (東北大学)

K. 超新星爆発

9月10日(木) 午前・G会場		9月10日(木) 午後・G会場	
09:30	K01a 「すざく」によるマゼラン星雲の古い超新星残骸の系統解析 武内陽子 (理化学研究所 / 東京理科大学)	13:30	K12a 大規模並列粒子シミュレーションコード開発フレームワーク FDPS の開発とそのアプリケーション 谷川衝 (理化学研究所)
09:42	K02a チャンドラ衛星による超新星残骸 CassiopeiaA におけるスカンジウム及びチタン KX 線の発見 池田拓馬 (立教大学)	13:42	K13a 超新星 shock breakout の 2 次元輻射流体シミュレーション 鈴木昭宏 (京都大学)
09:54	K03a 長周期のパルサー 1E 161348-5055 に付随する超新星残骸 RCW 103 の親星質量の推定 古田禄大 (東京大学)	13:54	K14a マグネターが与える超新星及び超新星残骸への影響 増山美優 (東京大学)
10:06	K04a Sub-MeV/MeV ガンマ線観測による Ia 型超新星の爆発過程解明手段 II 水村好貴 (京都大学)	14:06	K15a 音響メカニズムによる重力崩壊型超新星爆発の系統的研究 原田了 (東京大学)
10:18	K05a ガンマ線背景放射から Ia 型超新星へ 幾田佳 (京都大学)	14:18	K16a 非球対称な重力崩壊型超新星爆発における p 過程核元素合成 藤本信一郎 (熊本高専)
10:30	K06a Ia 型超新星残骸における生き残り伴星の検出可能性 野田和弘 (東京大学)	14:30	K17a 原始中性子星における有限温度非一様状態の核物質 中里健一郎 (東京理科大学)
10:42	K07a バイクラスタリングの対話型可視化ツールを用いた Ia 型超新星の分類 植村誠 (広島大学)	14:42	K18a 超新星爆発における軽元素によるニュートリノ反応の影響 古澤峻 (国立天文台)
10:54	K08a Ia 型超新星の特異な減光則を引き起こす母銀河ダストの性質 野沢貴也 (国立天文台)	14:54	K19a ニュートリノ機構に基づく重力崩壊型超新星の網羅的研究 中村航 (早稲田大学)
11:06	K09a IIb/IIP/III 遷移型超新星 SN 2014G の測光分光観測 福嶋大樹 (大阪教育大学)	K20c 重力崩壊型超新星の多次元モデルに基づく重力波形の特徴 荒木惟 (福岡大学理学部)	
11:18	K10a 光赤外線大学間連携によるスーパーチャンドラセカール超新星候補 SN 2012dn の ToO 観測：赤外超過とダスト放射 山中雅之 (甲南大学)		
11:30	K11b IIP 型超新星 2014cx の早期紫外 - 近赤外域 SED の解析 中岡竜也 (広島大学)		

L. 太陽系

M. 太陽

9月9日(水) 午前・E会場		9月9日(水) 午後・C会場	
11:00	L01a C/2013 R1(Lovejoy) 彗星ガス輝線への Abel 変換の適用 II. 長谷川隆 (群馬県立ぐんま天文台)	15:00	M01a 次期太陽観測衛星計画「Solar-C Mission」経過報告 渡邊鉄哉 (国立天文台)
11:12	L02a 2014年ほうおう座流星群のアメリカ東海岸での光学観測 藤原康徳 (総合研究大学院大学)	15:12	M02a Solar-C時代の地上大型太陽望遠鏡の精度限界とSUVIT 一本潔 (京都大学)
11:24	L03a 「あかり」遠赤外・中間赤外線観測に基づく黄道光ダストバンド構造の検出と小惑星起源ダストの性質の解明 大坪貴文 (東京大学)	15:24	M03a 過去半世紀にわたる太陽マイクロ波スペクトルの変動 下条圭美 (国立天文台)
11:36	L04b 赤外線天文衛星「あかり」による小惑星の近赤外線分光サーベイ 臼井文彦 (東京大学)	15:36	M04a 第24太陽活動周期のグローバルな活動状況 柴崎清登 (太陽物理学研究所)
	L05c 小天体の含水鉱物探査にむけたMIMIZUKU近赤外線分光機能の検討 上塚貴史 (東京大学)	15:48	M05a 強い密度成層下での対流ダイナモと磁気スポット形成の物理 政田洋平 (愛知教育大学)
	L06c 東北大学ハレアカラ観測所(ハワイ)における木星の撮像観測 浅田正 (九州国際大学)	16:00	M06a 大規模磁場構築における小スケールダイナモの影響 堀田英之 (HAO/NCAR)
		16:12	M07a 磁気要素の自動追跡モジュールを用いた太陽黒点の成長/崩壊過程の解析 加藤翔大 (名古屋大学)
		16:24	M08b 南極ドローニングモードランドアイスコアの酸素同位体比からわかる気温変動と太陽活動周期との関係 長谷部憂磨 (理化学研究所/埼玉大学)
		16:24	M09b NICT 新太陽電波望遠鏡-III 久保勇樹 (情報通信研究機構)
		16:24	M10b 強非対称磁気リコネクションの非対称度依存性 新田伸也 (筑波技術大学)
		16:36	M11b Cross-field superslow propagation by continuum Alfvén/slow magnetosonic waves 金子岳史 (東京大学)

		9月10日(木) 午前・C会場	
16:36	M12b	プロミネンスにおける中性粒子とカルシウムイオンの速度差から明らかにする部分電離プラズマの磁場拡散2 阿南徹 (京都大学)	09:30 M20a Hinode 衛星と IRIS 衛星による MHD 波動の高時間分解能観測 加納龍一 (東京大学)
16:36	M13b	国立天文台太陽フレア望遠鏡 H α 線観測データ自動処理システムの改良 大辻賢一 (国立天文台)	09:42 M21a コロナ輝線幅の非熱的速度成分について 原弘久 (国立天文台)
16:48	M14b	野辺山電波ヘリオグラフ 34GHz の像合成方法と彩層大気 岩井一正 (情報通信研究機構)	09:54 M22a 磁気リコネクションによって発生するエネルギーフラックスとコロナ加熱 岩本直己 (茨城大学)
16:48	M15b	飛騨 DST 偏光分光観測による黒点半暗部形成と磁場発展との関係性の検証 米谷拓朗 (茨城大学)	10:06 M23a アルフベン波の非線形反射 庄田宗人 (東京大学)
16:48	M16b	狭帯域チューナブルフィルターを用いたエーラマンボムの三次元立体構造の解明 加藤友梨 (茨城大学)	10:18 M24a On optimized relation functions of solar wind plasma used in the IPS-MHD tomography and their long-term evolution 林啓志 (名古屋大学)
	M17c	太陽極域の磁気パッチ形成と光球収束流について 末松芳法 (国立天文台)	10:30 M25a 自動追跡モジュールを用いた太陽コロナホール生成・消滅過程の研究 加納大空 (名古屋大学)
	M18c	Ca II K 分光観測によるコロナループ足元の彩層現象の診断 II 永田伸一 (京都大学)	10:42 M26a 日食時データを用いた EIS 観測における迷光寄与の評価 藤下祐人 (名古屋大学)
	M19c	太陽風領域の自動識別について 亓慎一 (情報通信研究機構)	10:54 M27a Solar micro-Type III burst storms and long dipolar magnetic field in the outer corona 森岡昭 (東北大学)
			11:06 M28a 太陽電波 IV 型バースト中の微細構造ゼブラパターンの放射過程における X モードの出現過程 金田和鷹 (東北大学)
			11:18 M29a 高感度硬 X 線観測ロケット FOXSI-2 とひので X 線望遠鏡による太陽活動領域の温度解析 石川真之介 (ISAS/JAXA)

9月10日(木) 午後・C会場		9月11日(金) 午前・C会場	
13:30	M30a ひので・IRIS 衛星による半暗部マイクロジェットの観測 勝川行雄 (国立天文台)	09:30	M40a 京都大学飛騨天文台 SMART/FISCH による 2015 年 5 月 6 日 (日本時間) の白色光フレアの観測 石井貴子 (京都大学)
13:42	M31a IRIS 衛星 Mg II h/k 線観測で明らかにするスピキュール発生源 阿南徹 (京都大学)	09:42	M41a 白色光増光現象を引き起こす太陽フレアの特徴 渡邊恭子 (国立天文台)
13:54	M32a 2 次元輻射磁気流体計算による彩層ジェット構造のコロナ温度依存性の検証 飯島陽久 (東京大学)	09:54	M42a 野辺山電波ヘリオグラフを用いた白色光・非白色光フレアの比較研究 増田智 (名古屋大学)
14:06	M33a 彩層分光観測から迫る太陽フレアのエネルギー解放過程 鄭祥子 (京都大学)	10:06	M43a Hinode/XRT CCD イメージセンサを利用した SEP の特徴に関する研究 山田正矩 (茨城大学)
14:18	M34a 磁場がサージを加速するメカニズムについての観測的検証 坂上峻仁 (京都大学)	10:18	M44a 太陽フレア MeV 中性子の検出に向けた基礎開発実験 小野光 (東京大学)
14:30	M35a ホモログスフレアの 3 次元磁場構造の時系列解析 川畑佑典 (東京大学)	10:30	M45a フレアループトップ上空における衝撃波構造とその動的性質 高棹真介 (京都大学)
14:42	M36a フィラメント放出を伴う M クラスフレア の多波長観測 大山真満 (滋賀大学)	10:42	M46a コロナ中の衝撃波に伴うプロミネンス振動の磁気流体シミュレーション II 西田圭佑 (京都大学)
14:54	M37a フレア発生前磁場特徴量の統計的傾向とフレア予測手法開発 西塚直人 (情報通信研究機構)	10:54	M47a 動的に形成する電流シートにおける高速リコネクションのオンセット 磯部洋明 (京都大学)
15:06	M38a 飛騨天文台 SMART 望遠鏡を用いたフィラメント消失についての調査 廣瀬公美 (京都大学)		
15:18	M39a 飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡を用いた多波長偏光分光観測によるプロミネンスの磁場診断 佐野聖典 (京都大学)		

N. 恒星

9月9日(水) 午前・A会場		9月9日(水) 午後・A会場			
11:00	N01a	LAMOST で検出された金属欠乏星候補天体のすばる高分散分光観測 青木和光 (国立天文台)	15:00	N14a	特異な食連星ぎょしゃ座 ϵ 星の高 S/N 高分散分光モニタ観測: 2008 年 10 月 ~ 2014 年 5 月の変化の特徴 神戸栄治 (国立天文台)
11:12	N02a	炭素過剰金属欠乏星における Li 含有量の詳細な解析 松野允郁 (総合研究大学院大学/国立天文台)	15:12	N15a	星のスペクトルタイプと LSP 変光現象の関連性 高山正輝 (東京大学)
11:24	N03a	LAMOST で検出された $[Fe/H] < -3.5$ の天体のすばる HDS による r プロセス元素組成の解析 青木みさ (国際基督教大学)	15:24	N16a	赤色巨星の振動の双極子モードの漸近解析と星震学への応用 高田将郎 (東京大学)
11:36	N04a	s- 過程核種合成と炭素過多金属欠乏 (CEMP) 星形成の統一的描像 山田志真子 (北海道大学)	15:36	N17a	Physical Properties of Fullerene-containing PN Lin49 in the SMC 大塚雅昭 (ASIAA)
11:48	N05a	矮小銀河中の恒星のデータベース (2) 須田拓馬 (東京大学)	15:48	N18a	AGB 星からの質量放出へのダストのドリフト運動の影響 保田悠紀 (北海道大学)
12:00	N06a	古典新星における爆発的リチウム合成の発見 田実晃人 (国立天文台)	16:00	N19a	近赤外高分散分光観測で迫る LBV 星の周辺構造 水本岬希 (東京大学)
12:12	N07a	KWFC 銀河面変光天体探査 (KISOGP)-IV 松永典之 (東京大学)	16:12	N20a	Wolf-Rayet 星 EZ CMa の X 線スペクトル変動調査 菅原泰晴 (中央大学)
12:24	N08a	全天 X 線監視装置 MAXI/GSC を用いた星からの巨大フレアの最新報告 兼藤聡一郎 (中央大学)	16:24	N21a	近傍銀河で発生した II 型超新星 SN 2006jd の X 線モニター観測 勝田哲 (宇宙航空研究開発機構)
12:36	N09b	活動的な太陽型星の測光モニター観測 前原裕之 (国立天文台)	16:36	N22a	高速回転するバロクリニック星の構造 - 高速回転星進化計算に向けて 藤澤幸太郎 (早稲田大学)
12:36	N10b	スーパーフレア星のリチウム組成 II 本田敏志 (兵庫県立大学)	16:48	N23a	星の進化計算を目指した回転平衡形状の導出 安武伸俊 (千葉工業大学)
12:36	N11b	早期型星の X 線放射機構の観測的研究 津村大樹 (立教大学)			
12:48	N12b	ミラ型変光星 α Cet および R Leo の星周構造の探査 上塚貴史 (東京大学)			
12:48	N13b	水メーザースペクトルの高頻度モニターリングによる星周エンベロープでの周期的な加減速の検出 須藤広志 (岐阜大学)			

P1. 星・惑星形成

9月10日(木) 午前・A会場			
09:30	P101a Streaming Velocity による宇宙初期の大質量ブラックホール形成 平野信吾 (東京大学)	11:30	P113b 原始惑星系円盤形成過程の解析的モデルと回転速度分布の観測との比較 高橋実道 (東北大学)
09:42	P102a 宇宙論的環境下での Direct Collapse シナリオによる SMBH の形成可能性 鄭昇明 (東京大学)	11:30	P114b 原始惑星系円盤の光蒸発 I: 2次元輻射流体コードの開発 仲谷峻平 (東京大学)
09:54	P103a 原始銀河の高速衝突による超巨大ブラックホールの種形成 稲吉恒平 (Columbia Univ.)	9月10日(木) 午後・A会場	
10:06	P104a 初代星形成におけるバースト的降着と間欠的 UV フィードバック 細川隆史 (東京大学)	13:30	P115a 連星降着モデルで探る周連星円盤の構造 松本倫明 (法政大学)
10:18	P105a Supermassive stars forming with episodic accretion in the early universe 櫻井祐也 (東京大学)	13:42	P116a 低エントロピー降着により形成した前主系列星の内部構造進化 國友正信 (名古屋大学)
10:30	P106a 臨界強度未満の解離輻射を受けた始原ガス雲の成長と星形成 森陽里 (東京大学)	13:54	P117a Dissecting the dust composition in the circumstellar environment of a young close binary system SVS13 Takuya Fujiyoshi (Subaru Telescope)
10:42	P107a 初代星は銀河系内のどこに生き残っているか? 石山智明 (千葉大学)	14:06	P118a おおかみ座の遷移円盤天体における高解像度近赤外線偏光観測 工藤智幸 (国立天文台)
10:54	P108a Athena++: a New RMHD Simulation Code with Adaptive Mesh Refinement Kengo Tomida (Princeton Univ.)	14:18	P119b 変光に基づく前主系列星の探査 伊藤洋一 (兵庫県立大学)
11:06	P109a ホール効果によって引き起こされる2種類の円盤形成進化過程 塚本裕介 (理化学研究所)	14:18	P120b 高銀緯分子雲における星形成探査 大朝由美子 (埼玉大学)
11:18	P110b 低金属度衝撃波圧縮ガス領域の分裂 宮澤航平 (東北大学)	14:18	P121b W5 のブライトリム分子雲に付随する YSO の近赤外線高分解能撮像観測 今井理恵子 (名古屋市立大学)
11:18	P111b フィラメント状ガス雲の形状的進化について 水野友理那 (東北大学)	14:30	P122a 超低光度天体 IRAS 16253-2429 に付随するエンベロープの力学構造 原千穂美 (東京大学 / 国立天文台)
11:18	P112b 磁場と回転の効果による円盤の方向の空間依存性 町田正博 (九州大学)	14:42	P123a Class 0 原始星 IRAS 16293-2422 におけるエンベロープの速度構造解析 大屋瑤子 (東京大学)
		14:54	P124a Unbiased Chemical Survey of Protostellar Sources in Perseus 坂井南美 (理化学研究所)

15:06	P125a 星形成領域における $c\text{-C}_3\text{H}_2$ の ^{13}C 同位体存在量異常 吉田健人 (東京大学)	10:42	P136a S87 HII 領域における分子雲クランプ衝突による星団形成の観測的研究 齋藤弘雄 (日本工業大学)
15:18	P126a OH 18 cm 線の吸収線と構造形成の関係の研究 海老澤勇治 (東京大学)	10:54	P137a 分子雲衝突による星形成に UV フィードバックが与える影響のシミュレーション II 島和宏 (北海道大学)
15:30	P127b 星形成レガシープロジェクト: FOREST による W40 の ^{12}CO ・ ^{13}CO 観測 秦野義子 (東京学芸大学)	11:06	P138a 大マゼラン雲における孤立した大質量原始星に付随する分子ガス観測 原田遼平 (大阪府立大学)
15:30	P128b EAVN による 6.7 GHz メタノール・メーザーの VLBI サーベイ XI: ペア形状メーザー天体と多重原始星系 蜂須賀一也 (山口大学)	11:18	P139a 銀河系外縁部における低金属量星生成領域 Sh 2-207 の近赤外深撮像 安井千香子 (東京大学)
15:30	P129b Vela C 分子雲の近赤外線偏光観測 楠根貴成 (名古屋市立大学)	11:30	P140a WISE データを用いた銀河系最外縁領域における星生成領域探査 泉奈都子 (東京大学)
9 月 11 日 (金) 午前・A 会場			
09:30	P130a 星間アミノ酸の合成シミュレーション 加藤貴大 (東京工業大学)		
09:42	P131a SiO in the high-mass protocluster NGC2264-C: A tracer of protostellar shock history? Ana López-Sepulcre (The University of Tokyo)		
09:54	P132a IRDC G34.43+00.24 MM3 に付随した若いホットコアの化学組成 酒井剛 (電気通信大学)		
10:06	P133a ALMA によるオリオン KL における 658 GHz 振動励起水分子輝線の観測 廣田朋也 (国立天文台)		
10:18	P134a VLA による G353.273+0.641 周囲の階層的降着構造の発見 元木業人 (国立天文台)		
10:30	P135a 日立 32-m 電波望遠鏡を用いた大規模な 6.7 GHz メタノール・メーザーモニタースーベイ 杉山孝一郎 (茨城大学)		

P2. 星・惑星形成

9月9日(水) 午後・B会場			
16:00	P201a すばる戦略枠プロジェクト SEEDS による Young Stellar Object における惑星探査 2 鶴山太智 (東京大学)	10:06	P211b 系外惑星の直接視線速度観測に向けた分光コロナグラフの性能評価 高橋瑞樹 (北海道大学)
16:12	P202a 活動性や自転周期を指標として推定された年齢をもつ太陽近傍恒星に対する SEEDS による直接撮像惑星探査 葛原昌幸 (東京工業大学)	10:18	P212a 主系列期における永続的な生命発生の可能性を考慮したハビタブルゾーン 1: フォーマリズム 釜谷秀幸 (防衛大学校)
16:24	P203a 長周期視線速度変化を示す中質量巨星の伴星候補に対する追観測 笠嗣瑠 (総合研究大学院大学)	10:30	P213a 中間赤外線撮像観測でさぐる Oph IRS 48 の遷移円盤の構造 岡田一志 (東京大学)
16:36	P204a MOA-2012-BLG-527Lb: 重力マイクロレンズ法で見つかった氷惑星 越本直季 (大阪大学)	10:42	P214a HL Tau 周囲の原始惑星系円盤の多波長輻射平衡モデル 持田一貴 (千葉大学)
16:48	P205a MOA-II による氷境界外側の惑星存在頻度 鈴木大介 (University of Notre Dame)	10:54	P215b 原始惑星系円盤 HD142527 のミリ波偏光観測予測 片岡章雅 (ハイデルベルク大学)
9月10日(木) 午前・B会場		10:54	P216b タンデム惑星形成 今枝佑輔 (理化学研究所)
09:30	P206a 重力減光とスピン-軌道歳差運動を起こす系外惑星系 PTFO 8-8695 のトランジット光度曲線の再解析 上赤翔也 (東京大学)	10:54	P217b 高次精度 MHD スキームを用いた磁気回転不安定性の計算機実験 平井研一郎 (東北大学)
09:42	P207a ESPRINT プロジェクトによる K2 惑星候補のフォローアップ観測 平野照幸 (東京工業大学)		P218c 高ダスト-ガス比の原始惑星系円盤で形成される微惑星のサイズ 長谷川幸彦 (国立天文台)
09:54	P208a 岡山 188cm 望遠鏡 MuSCAT の観測成果 I: K2 のトランジット惑星候補 EPIC201505350b のトランジット時刻変動 (TTV) の確認 成田憲保 (アストロバイオロジーセンター)	11:06	P219b 巨大惑星の Type II 惑星移動現象解明のための数値計算コード開発 岩崎一成 (同志社大学)
10:06	P209b 岡山 188cm 望遠鏡 MuSCAT の観測成果 II: 逆行ホットジュピター HAT-P-14b に対する多色精密トランジット観測 福井暁彦 (国立天文台)	11:06	P220b Exoplanetary System Dynamics: Multiplicity and Planetary Mass Effects 磯江麻里 (東京大学 / 国立天文台)
10:06	P210b Apsidal Motion を利用した連星系に付随する第 3 体の探査 加藤則行 (兵庫県立大学西はりま天文台)	11:06	P221b 周惑星円盤の散逸過程を考慮した微惑星の捕獲過程 末次竜 (神戸大学)
		11:18	P222b WPH 法による月形成シミュレーション 河瀬哲弥 (京都大学)
		11:18	P223b 雲粒の衝突合体を考慮した系外惑星の雲モデルの開発 大野和正 (東京工業大学)

11:18	P224b 主系列期における永続的な生命発生の可能性を考慮したハビタブルゾーン 2 : 金属量の効果 大石碧 (防衛大学校)	15:18	P235a 微惑星衝突問題への拡張 : ゴドノフ SPH 法の張力優勢領域での安定化 杉浦圭祐 (名古屋大学)
	P225c ダスト分布を考慮した褐色矮星の赤外線スペクトルの解析 空華智子 (東京大学)	9月11日 (金) 午前・B会場	
9月10日 (木) 午後・B会場		09:30	P236a 惑星の大領域集積計算 : ガス円盤内での惑星の外側への移動 小南淳子 (東京工業大学)
13:30	P226a 巨大ガス惑星大気中の磁気流体力学計算における輻射輸送 田中佑希 (名古屋大学)	09:42	P237a その場で巨大衝突集積した惑星系における初期ランダム速度の影響 松本侑士 (国立天文台)
13:42	P227a 原始惑星系円盤におけるギャップ構造と巨大惑星との関係 金川和弘 (北海道大学)	09:54	P238a 巨大衝突による近接地球型惑星の形成 II. 惑星系の最小角運動量欠損 小久保英一郎 (国立天文台)
13:54	P228a Exponential cutoff を持つ原始惑星系円盤中の非軸対称流体不安定性 小野智弘 (京都大学)	10:06	P239a M型星における地球型惑星の形成過程 押野翔一 (国立天文台)
14:06	P229a 電子加熱による磁気乱流の抑制が引き起こす遠方の重力不安定 森昇志 (名古屋大学 / 東京工業大学)	10:18	P240a 黄道光の空間非軸対称性から推定するダストサイズ分布 植田高啓 (東京工業大学)
14:18	P230a 原始惑星系円盤中の圧力バンプにおけるダスト合体成長 瀧哲朗 (東京工業大学)	10:30	P241a ガス円盤中での小天体の軌道進化 小林浩 (名古屋大学)
14:30	P231a 原始惑星系円盤の磁気乱流で駆動される円盤風中でのダストの動力学 三宅智也 (名古屋大学)	10:42	P242a 捕獲された固体物質の周惑星円盤内での分布 末次竜 (神戸大学)
14:42	P232a 乱流の直接数値計算による原始惑星系円盤中の粒子運動に対する鉛直重力の影響の解析 小林直樹 (名古屋大学)	10:54	P243a 土星の環の自己重力ウェイク構造の傾き角 道越秀吾 (国立天文台)
14:54	P233a 電磁流体乱流の直接数値シミュレーションによる原始惑星系円盤内の粒子運動の解析 高橋良輔 (名古屋大学)	11:06	P244a ソーラー電力セイルによる木星トロヤ群小惑星探査 中村良介 (産業技術総合研究所)
15:06	P234a 微惑星形成過程解明のための乱流の直接数値計算と粒子追跡 江野畑圭 (名古屋大学)		

Q. 星間現象

9月10日(木) 午後・F会場			
13:30	Q01a	グリシン前駆体、CH ₂ NHが豊富な天体の物理的特徴 鈴木大輝(総合研究大学院大学)	14:42 Q11a ALMA Calibrator Sourceを用いた銀河系内分子吸収線系の検出とその物理化学状態の考察 安藤亮(東京大学)
13:42	Q02a	VLT/ISAAC infrared spectroscopy of embedded high-mass YSOs in the Large Magellanic Cloud: Methanol and the 3.47 μm band 下西隆(東北大学)	14:54 Q12a NRO 銀河面サーベイプロジェクト: 2014年度進捗 梅本智文(国立天文台)
13:54	Q03a	Diffuse interstellar bandsの同定に向けたフェノキシラジカルの実験室分光 荒木光典(東京理科大学)	15:06 Q13a NRO 銀河面サーベイプロジェクト: JCMTと野辺山45m望遠鏡を用いたコンパクトHII領域のCO輝線観測 河野樹人(名古屋大学)
14:06	Q04b	低質量星形成領域L1527における42-44GHz帯の炭素鎖分子ラインサーベイ 荒木光典(東京理科大学)	15:18 Q14b NRO 銀河面サーベイプロジェクト: 銀河系外縁部2 松尾光洋(鹿児島大学)
14:06	Q05b	WINEREDを用いたCyg OB2 associationの赤外線高分散分光観測 - DIBの環境依存性 - 濱野哲史(京都産業大学)	15:18 Q15b 大阪府立大学1.85m電波望遠鏡による銀河系内分子雲の広域観測: 2014年度進捗 徳田一起(大阪府立大学)
14:06	Q06b	Infrared absorption spectra of LIME olivine and its detection feasibility in observations 茅原弘毅(大阪産業大学)	9月11日(金) 午前・F会場
14:18	Q07a	国際宇宙ステーション「きぼう」利用簡易曝露実験装置ExHAMを利用した炭素質ダストの宇宙環境曝露実験 左近樹(東京大学)	09:30 Q16a Do stars destroy their gaseous nurseries? Elizabeth Tasker (Hokkaido Univ.)
14:30	Q08b	高銀緯分子雲MBM 30とMBM 20の可視偏光とサブミリ波データとの比較: 星間塵粒子の整列機構の考察 松村雅文(香川大学)	09:42 Q17a 温度非等方な非一様プラズマ中に励起されるワイベル不安定性 富田沙羅(青山学院大学)
14:30	Q09b	AKARI and AME: A look at microwave dust emission via the Infrared Aaron C. Bell (University of Tokyo)	09:54 Q18a 宇宙線を考慮した磁気流体方程式の新たな数値解法 工藤祐己(千葉大学)
14:30	Q10b	高銀緯領域における近赤外線1-5 μm 銀河拡散光の測定 佐野圭(東京大学/宇宙航空研究開発機構)	10:06 Q19b 光蒸発の流体中での化学反応への依存性 本山一隆(国立情報学研究所)
			10:06 Q20b 非一様媒質と相互作用する超新星残骸衝撃波での宇宙線加速効率についての理論研究 霜田治朗(青山学院大学)

		9月11日(金) 午後・F会場			
10:06	Q21b	Synchrotron 放射における輻射反作用を考慮した相対論的衝撃波による粒子加速シミュレーション 野上雅弘(青山学院大学)	13:30	Q31a	速度分散を持つ中性水素クランプとジェット of 相互作用シミュレーション 朝比奈雄太(国立天文台)
	Q22c	Three-dimensional MHD Simulations of the Parker Instability with Cooling/Heating Effects Chih-Han Peng (Chiba Univ.)	13:42	Q32a	21cm 線スペクトルを使った中性水素原子の定量: 数値シミュレーションとの比較 早川貴敬(名古屋大学)
10:18	Q23a	スーパーバブル 30 Doradus C の X 線データ詳細解析 馬場崎康敬(名古屋大学)	13:54	Q33a	銀河面に衝突する中間的速度 H _I 雲(IVC) の発見 丸山将平(名古屋大学)
10:30	Q24b	スーパーバブル 30 Doradus C における星間ガスと高エネルギー放射 佐野栄俊(名古屋大学)	14:06	Q34a	分子雲衝突によって誘発された大質量星形成: JCMT ¹² CO J=3-2 輝線を用いたコンパクト HII 領域に付随する分子雲 大浜晶生(名古屋大学)
10:30	Q25b	Magnetic Field Strength in the Sagittarius A Molecular Cloud Complex 坪井昌人(宇宙航空研究開発機構)	14:18	Q35a	Mopra 望遠鏡と ASTE 望遠鏡による Spitzer Bubble S145(RCW79) に対する CO 輝線詳細観測 長谷川敬亮(名古屋大学)
10:30	Q26b	銀河系中心からのプラズマアウトフローの観測 中島真也(宇宙航空研究開発機構)	14:30	Q36a	Spitzer バブル S36 に対する分子雲観測: 分子雲衝突による大質量星形成 鳥居和史(名古屋大学)
10:42	Q27a	銀河系中心における拡散 X 線放射と星数密度分布との違いについて 西山正吾(宮城教育大学)	14:42	Q37a	複合的バブル領域 S116,S117,S118 における分子雲衝突 服部有祐(名古屋大学)
10:54	Q28a	銀河リッジ X 線放射の 6.4 keV 輝線 信川久実子(京都大学)	14:54	Q38a	IRSF・「すざく」・「あかり」で探る超新星残骸 IC443 における鉄輝線の起源 國生拓摩(名古屋大学)
11:06	Q29a	星フレアの銀河リッジ X 線放射への寄与 松岡勝(理化学研究所)	15:06	Q39a	大小マゼラン雲における超新星残骸周辺の分子ガスサーベイ観測 藤井浩介(東京大学)
11:18	Q30a	かに星雲のガンマ線フレアの物理的制約 寺木悠人(理化学研究所)			

R. 銀河

9月9日(水) 午前・H会場				
11:00	R01a	Dust Cores around Sagittarius A* detected with ALMA 坪井昌人(宇宙航空研究開発機構)	12:24 R11b Schmidt-Kennicutt 則の傾きと高密度ガス質量の割合の関係 諸隈佳菜(国立天文台)	
	R02c	Search for Time Lag of Sgr A* IDV with KVN 宮崎敦史(法政大学)	12:36 R12a ALMAによる赤外線銀河 IRAS20551-4250の赤外線放射励起の研究 今西昌俊(国立天文台)	
11:12	R03a	What is a Giant Molecular Cloud? Are Observers and Simulators Discussing the Same Star-forming Clouds? Hsi-An Pan (Hokkaido Univ.)	12:48 R13a 多波長測光データで探る中近傍銀河の星形成と活動銀河核の関係 小山舜平(東京工業大学、ISAS/JAXA)	
11:24	R04a	The origin of the broad feature at 22 μ m and its association with the molecular clouds of the Great Nebula in Carina. Ronin Wu (Department of Astronomy, the University of Tokyo)	9月9日(水) 午後・H会場	
11:36	R05a	低重元素量の銀河 IC 10にある分子雲の3 mm 帯ラインサーベイ 西村優里(東京大学)	15:00 R14a NRO レガシープロジェクト COMING (1): プロジェクトの概要 徂徠和夫(北海道大学)	
11:48	R06a	近傍銀河で観測される分子雲スケールの化学組成の意味 渡邊祥正(東京大学)	15:12 R15b NRO レガシープロジェクト COMING (2): 棒渦巻銀河 NGC2903 の CO(J=1-0) 多輝線撮像観測 柳谷和希(大阪府立大学)	
12:00	R07a	超新星爆発の影響を考慮した棒渦巻銀河における分子雲形成・進化 藤本裕輔(北海道大学)	15:12 R16b NRO レガシープロジェクト COMING (3): 棒渦巻銀河 NGC 2903 における分子ガスの物理状態診断 武田美保(大阪府立大学)	
12:12	R08a	ASTE を用いた衝突の初期段階の銀河ペアのサーベイ観測 道山知成(総合研究大学院大学/国立天文台)	15:12 R17b NRO レガシープロジェクト COMING (4): 近傍矮小銀河 NGC2976 の分子ガス観測 畠山拓也(筑波大学)	
12:24	R09b	ALMA による衝突銀河 NGC1614 の CO 分子観測 安藤未彩希(総合研究大学院大学/国立天文台)	15:24 R18b NRO レガシープロジェクト COMING(5): 近傍銀河 NGC 3079 の CO 観測 宮本祐介(国立天文台)	
12:24	R10b	渦巻銀河 M 101 のディスク外縁部の星形成領域における CO(J=1-0) 輝線観測 岸田望美(北海道大学)	15:24 R19b Suprime-Cam を用いた Ursa Minor 矮小楕円体銀河の測光解析 佐々木花(東北大学)	
			15:24 R20b 矮小銀河の化学進化における重元素の選択的な流出 本間英智(東北大学)	
			15:36 R21a 異なる質量の矮小銀河における r プロセス元素分布 平居悠(東京大学/国立天文台)	

		9月10日(木) 午前・H会場			
15:48	R22a	M31に衝突した矮小銀河の形態とダークマター分布の時間進化 桐原崇亘 (筑波大学)	09:30	R30a	FDPS(Framework for Developing Particle Simulator): 大規模分散メモリ環境下での粒子系シミュレーション用フレームワークの開発 岩澤全規 (理化学研究所)
16:00	R23a	「あかり」衛星によるヒクソン・コンパクト銀河群の赤外線観測 池内綾人 (東京大学)		R31c	銀河の重力コラプスの位相空間における進化: N体法とVlasov法の比較 穂積俊輔 (滋賀大学)
16:12	R24b	「あかり」データアーカイブプロジェクトの現状(6) 山村一誠 (宇宙航空研究開発機構)		R32c	銀河中心部の大質量天体と球状星団系の性質の関係 隈井泰樹 (熊本学園大学)
16:12	R25b	Catalog of the Akari-, Spitzer-, and, Herschel-Inspected Nearby Galaxies (CASHING) Ronin Wu (Department of Astronomy, the University of Tokyo)	09:42	R33a	銀河面からの軟X線背景放射(3) 中道蓮 (名古屋大学)
16:12	R26b	渦状腕理論の新たな観測的診断法の提案: arm-gas offset法 馬場淳一 (東京工業大学)	09:54	R34a	Jitter radiation origin of the Galactic microwave Haze emission 服部誠 (東北大学)
16:24	R27a	近傍渦巻銀河 M51 における腕構造の進化 江草芙実 (国立天文台)	10:06	R35a	すざく衛星による渦巻銀河 M101 の観測 山内茂雄 (奈良女子大学)
16:36	R28a	Structure and dynamics of perturbed galactic discs Alex Pettitt (Hokkaido Univ.)		R36c	鉄輝線放射率から探る銀河系拡散X線放射の放射源 長友竣 (京都大学)
16:48	R29a	銀河の多成分力学平衡分布生成コードの開発 三木洋平 (筑波大学)			

S. 活動銀河核

9月9日(水) 午後・F会場		9月10日(木) 午前・F会場	
15:00	S01a EVN 及び VLBA を用いた M87 ジェットにおける活動的ノット HST-1 の長期運動モニター 秦和弘 (国立天文台)	09:30	S11b ブレーザー OJ 287 のガンマ線増光と電波ジェット成分生成 澤田 - 佐藤聡子 (茨城大学)
15:12	S02a GENJI プログラム : VLBI モニター観測により明らかになった電波銀河 3C 84 における新たな電波ローブの形成 千田華 (東海大学 / 国立天文台)	09:30	S12b ダブルピーク広輝線を持つ電波銀河 3C332 の JVN による高分解能観測 中島大貴 (北海道大学)
15:24	S03a 宇宙で最大級の電波銀河 3C 236 のジェットの活動 磯部直樹 (宇宙航空研究開発機構)	09:30	S13b 「すざく」による電波銀河 Centaurus A ローブのX線観測 瀬田裕美 (首都大学東京)
15:36	S04a ブレーザージェットの系統的な偏光変動探査 伊藤亮介 (広島大学)		S14c AGN ジェットの構造と放射スペクトル 岩本弘一 (日本大学)
15:48	S05a 電波銀河 NGC1275 と M87 のX線とガンマ線の同期した変動 深沢泰司 (広島大学)	09:42	S15a 銀河系中心 Sgr A* の時間変動の解析 上原顕太 (東京大学)
16:00	S06a 広輝線電波銀河 3C 111 のガンマ線・電波観測によるガンマ線放射位置とガンマ線放射機構の推定 志岐健成 (広島大学)	09:54	S16a ガス雲と相互作用する巨大ブラックホール高温降着流 : 3次元 MHD シミュレーションから予測する観測的特徴 川島朋尚 (国立天文台)
16:12	S07a Ultra-fast outflow を持つ活動銀河核からのガンマ線探査 友野弥生 (東海大学)	10:06	S17a 活動銀河核トラス内縁部の輻射流体計算 行方大輔 (筑波大学)
16:24	S08a 乱流二次加速による FSRQ 3C 279 のガンマ線フレアモデル 浅野勝晃 (東京大学)	10:18	S18a 「すざく」による低光度活動銀河核の広帯域 X 線スペクトルとそのトラス構造の理解 (II) 川室太希 (京都大学)
16:36	S09a 硬い放射スペクトルのブレーザーと非熱的電子の 2 次フェルミ加速機構 格和純 (広島大学)	10:30	S19a 非負値行列因子分解 (NMF) を用いたセイファート銀河の X 線エネルギースペクトル変動の解釈 海老沢研 (宇宙航空研究開発機構)
16:48	S10a 超高エネルギー宇宙線加速源候補天体の加速可能領域についての調査 加賀谷美佳 (茨城大学)	10:42	S20a 活動銀河におけるサブミリ波帯 H ₂ O メーザー探査 II 萩原喜昭 (東洋大学)
		10:54	S21a 近傍 Seyfert 銀河中心の分子ガス円盤と巨大ブラックホールの共進化 泉拓磨 (東京大学)
		11:06	S22a 近傍 2 型 AGN における遠赤外線光度と AGN 光度の関係性 松岡健太 (京都大学)

T. 銀河団

		9月9日(水) 午前・F会場	
11:18	S23b	一酸化炭素吸収バンドから探る AGN 中心核付近の温かいガスの分布 馬場俊介 (東京大学 / 宇宙航空研究開発機構)	11:00 T01a X線天文衛星「すざく」「XMM-Newton」を用いた楕円銀河高温ガスで起こる鉄輝線共鳴散乱の影響の評価 寺前拓人 (広島大学)
11:18	S24b	circum nuclear disk が超大質量ブラックホール成長史に与える影響についての準解析的モデルを用いた研究 白方光 (北海道大学)	11:12 T02a 偏波解消・ファラデーモグラフィを用いた衝突銀河団 Abell 2256 の電波レリック方向の磁場構造推定 小澤武揚 (鹿児島大学)
11:18	S25b	準解析的銀河・AGN 形成モデルによる AGN 自己相関関数 大木平 (文教大学)	11:24 T03a X線天文衛星すざくを用いた衝突銀河団探査 (3) 三石郁之 (名古屋大学)
11:30	S26b	可視光輝線診断による低金属量 AGN 探査 川崎光太 (愛媛大学)	11:36 T04a 衝突銀河団 Abell 85 のガス運動と相互作用 一戸悠人 (東京大学 / 宇宙航空研究開発機構)
	S27c	分光モニター観測によるクエーサーアウトフローガスの調査 堀内貴史 (信州大学)	11:48 T05a すざく衛星による Coma 銀河団の西部に位置する衝撃波の発見 内田悠介 (宇宙航空研究開発機構)
	S28c	クエーサー紫外 - 可視域多バンド光度曲線から得られる Inhomogeneous Accretion Disk Model への制限 小久保充 (東京大学)	12:00 T06a 衝突銀河団 CIZA J1358.9-4750 の衝撃波付近における鉄原子の電離状態 加藤佑一 (東京大学)
			12:12 T07a 「すざく」衛星で観測されたビリアル半径までの Abell 262 銀河団の鉄質量 - 銀河光度比 菅野祐 (東京理科大学)
			12:24 T08a Abell 3391 と Abell 3395 の連結領域の高温ガスの性質 菅原悠宇紀 (山形大学)
			12:36 T09a 「すざく」衛星による Abell2163 銀河団による銀河団外縁部までの観測 伊東雅史 (東京理科大学)
			12:48 T10a 銀河団の重力レンズ質量密度プロファイルの普遍性の検出 新倉広子 (東京大学)
			13:00 T11a かみのけ座銀河団の弱い重力レンズサブハロー周辺の温度構造 佐々木亨 (東京理科大学)
			13:12 T12b Hyper Suprime-Cam による重力レンズ銀河団の検出とその性質 宮崎聡 (国立天文台)

U. 宇宙論

9月9日(水) 午前・C会場		
11:00	U01a 宇宙マイクロ波背景放射偏光観測実験 POLARBEARによる重力レンズ起源 B-mode 偏光観測の現状 茅根裕司 (カリフォルニア大学バークレー校)	U13c もし、宇宙の素粒子の中で原子に成ることができた物が4%であり、96%がダークマターであるとするなら、陽子のラブの集団の爆発により、どのように原子はできたか。 小堀しづ
11:12	U02a 21cm バイスpekトルを用いた輝度温度場解析 島袋隼士 (名古屋大学)	
11:24	U03a バリオン-ダークマター間の超音速相対速度が宇宙論的観測に与える影響 浅羽信介 (名古屋大学)	
11:36	U04a kSZ 効果の理論モデルの構築 杉山尚徳 (Kavli IPMU)	
11:48	U05a ダークマターの速度分散の成長とハローの自己相似的進化 須藤大地 (東京大学)	
12:00	U06a 弱重力レンズピーク統計による宇宙モデルの検証 - 全天シミュレーションと理論モデルの比較 白崎正人 (国立天文台)	
12:12	U07a Hyper Suprime-Cam データを用いた超銀河団 CL0016 の弱い重力レンズ解析 桜井準也 (総合研究大学院大学)	
12:24	U08a サブミリレンズ銀河 SDP.81 におけるダークマター小構造の痕跡 井上開輝 (近畿大学)	
	U09c Topos Quantum Theory on Selected Contexts 中山薫二 (龍谷大学)	
12:36	U10a 宇宙膨張論の検証XX V 空間膨張宇宙ならば(6) 宇宙外天体から見れば 阿武靖彦	
12:48	U11a 高エネルギー加速器で観測されるクオークと見做されるものは何か。 小堀しづ	
13:00	U12b 質量はどのようにできたか。「質量を作るための定数」はいくらか。 小堀しづ	

V1. 観測機器

9月9日(水) 午前・I会場			
11:00	V101a 230GHz 国内 VLBI 実験報告 藤沢健太 (山口大学)	13:00	V113a RedPitaya を用いた世界一安い MKID 読み出し回路の構築 富田望 (東京大学)
11:12	V102a 中国 VLBI と東アジアネットワーク 川口則幸 (国立天文台)		V114c 大学 VLBI 連携の将来計画 藤沢健太 (山口大学)
11:24	V103a 超小型衛星によるスペース電波干渉 計の基礎実験 西尾正則 (愛知工科大学)		V115c 少数基線を用いた高感度 VLBI 観測に よるサイエンス 新沼浩太郎 (山口大学)
11:36	V104a きゃらばん・サブミリと日本・東アジア 主体の mm/sub-mm VLBI 三好真 (国立天文台)		V116c 気球 VLBI ミッションの検討 V 土居明広 (宇宙航空研究開発機構)
11:48	V105a インフレーション宇宙を検証する LiteBIRD 計画の現状 羽澄昌史 (高エネルギー加速器研 究機構 / カブリ IPMU)		V117c 気球 VLBI の基線変動 河野裕介 (国立天文台)
12:00	V106a CMB 偏光観測衛星 LiteBIRD におけ る系統誤差の研究 VI 永田竜 (高エネルギー加速器研究機構)		V118c 空気シャワーから放射されるマイクロ 波の探索 IV 大田泉 (甲南大学)
12:12	V107a CMB 観測衛星 LiteBIRD 搭載広視野 光学系の開発 井上将徳 (大阪府立大学)	9月9日(水) 午後・I会場	
12:24	V108b LiteBIRD 衛星光学系の 1/3 スケール モデルの開発および光学評価 木村公洋 (大阪府立大学)	15:00	V119a ALMA の運用 (7) と拡張計画 (1) 井口聖 (国立天文台)
12:24	V109b 電波合成型ミリ波アンテナの設計 3 (新たな結合伝送系について) 春日隆 (法政大学)	15:12	V120a ALMA 偏波観測機能の科学評価活動 報告 (6) 広視野偏波観測性能 亀野誠二 (国立天文台)
12:24	V110b 高萩 / 日立 32 m 電波望遠鏡の整備 状況 (12) 米倉覚則 (茨城大学)	15:24	V121a ALMA 偏波観測機能の科学評価活動 報告 (7) polarization calibrator 中西康一郎 (国立天文台)
12:36	V111a NICT 新太陽電波望遠鏡の開発 岩井一正 (情報通信研究機構)	15:36	V122a ALMA パイプラインの現状 4Cycle3 から の運用へ向けて 三浦理絵 (国立天文台)
12:48	V112a 電波観測技術を応用した雲発生予測 システムの開発—18-32GHz 帯試作機 による大気水蒸気量観測試験 長崎岳人 (高エネルギー加速器研究機構)	15:48	V123a ALMA サイクル 3 に向けた ALMA デー タ解析パイプラインの開発 杉本香菜子 (国立天文台)
		16:00	V124a ALMA データ解析ソフトウェア CASA の開発 8 中里剛 (国立天文台)
		16:12	V125b ALMA 単一鏡データ解析パイプライン の信号検出アルゴリズム改善 小杉城治 (国立天文台)

16:12	V126b デジタル分光計の閾値電圧非一様性が及ぼす系統誤差 亀野誠二（国立天文台）	09:54	V138b GLT 搭載用 230GHz 帯両円偏波・両サイドバンド分離受信機の開発(2) 長谷川豊（大阪府立大学）
16:12	V127b 超広帯域ヘテロダイン同時受信技術構築に向けた周波数分波器の設計 小嶋崇文（国立天文台）	09:54	V139b 野辺山宇宙電波観測所の運用：2 科学運用 齋藤正雄（国立天文台）
16:24	V128a テラヘルツ超伝導ミキサの検討状況 小嶋崇文（国立天文台）	10:06	V140a 「FOREST」搭載 IF 広帯域化 100 GHz 帯 SIS ミキサの開発3 上月雄人（大阪府立大学）
16:36	V129a サブミリ波帯較正用人工電波源 木内等（国立天文台）	10:18	V141a NRO 45m 望遠鏡搭載 100 GHz 帯ヘテロダインカメラ受信機の開発 長谷川豊（大阪府立大学）
16:48	V130b TRL 校正法によるマイクロ波帯デバイス特性評価方法の構築 高橋宏明（電気通信大学）	10:30	V142b 南極 30 cm 可搬型サブミリ波望遠鏡の指向性能の改善 栗木美香（筑波大学）
16:48	V131b 300-500 GHz 広帯域直交偏波分離器 (OMT) の開発 高橋諒（大阪府立大学）	10:30	V143b 一般のアンテナにおける実効開口面積と開口能率について 永井誠（筑波大学）
16:48	V132b 1.9 THz 帯導波管型超伝導HEBミキサ検出素子のホーン / 光学設計 齊藤滉介（大阪府立大学）	10:30	V144b 収差と開口能率の関係 今田大皓（筑波大学）
9 月 10 日（木）午前・I 会場		10:42	V145a 幾何光学の応用による広視野電波望遠鏡の効率的な光学設計 今田大皓（筑波大学）
09:30	V133a LMT50m 鏡用 2 ミリ受信機システムと爆発的星形成銀河、巨大ブラックホールの研究 川邊良平（国立天文台）	V146c 野辺山 45m 搭載 新マルチビーム受信機「FOREST」の開発進捗 10 南谷哲宏（国立天文台）	
09:42	V134b NANTEN2 100GHz 帯マルチビーム受信機の光学系設計 加藤千晴（名古屋大学）	V147c ASTE10 m 望遠鏡 THz 受信機の開発 相馬達也（東京大学）	
09:42	V135b NANTEN2 望遠鏡 115GHz 帯シングルビーム両偏波 SSB 受信機の開発 古賀真沙子（名古屋大学）	V148c Large Submillimeter Telescope (LST): 2) Specification, Operation Conditions, and Optics Kotaro Kohno（The Univ, of Tokyo）	
09:42	V136b NANTEN2 望遠鏡 230 GHz 帯シングルビーム両偏波 2SB 受信機の開発 大浜晶生（名古屋大学）	V149c Large Submillimeter Telescope (LST): 1) Concept and Science Case Ryohei Kawabe（NAOJ）	
09:54	V137b GaAs 系低雑音ミリ波受信機の低温環境での性能測定 亀谷和久（東京理科大学）		

V2. 観測機器

9月10日(木) 午前・H会場		9月10日(木) 午後・H会場	
10:18	V201a SuMIRe-PFS[2] – プロジェクトの概要と進捗状況 2015 田村直之 (東京大学)	13:30	V211a TMT 計画 – 進捗報告 臼田知史 (国立天文台)
10:30	V202b SuMIRe-PFS [3] 観測制御システム進捗 – ソフトウェア開発と観測の流れ 下農淳司 (東京大学)	13:42	V212b TMT 第一期観測装置 WFOS 開発へ向けた多結晶蛍石の研磨試験 尾崎忍夫 (国立天文台)
10:30	V203b SuMIRe-PFS [4] – Expected Sensitivity and Data Reduction Pipeline Kiyoto Yabe (Univ. of Tokyo)	13:42	V213b TMT 搭載中間赤外線観測装置における冷却チョッピングの検討 毛利清 (東京大学)
10:30	V204b SuMIRe-PFS [5]– 試験観測計画の概要と一部より：主焦点装置の位置決め手順について 森谷友由希 (東京大学)	13:42	V214b 3 波長同時偏光撮像装置の開発 潮田和俊 (埼玉大学)
10:42	V205a すばる HSC で得られた可視光突発天体の選別 森井幹雄 (統計数理研究所)	13:54	V215b 可視面分光装置 Kyoto3DII の CCD システムアップグレード 満田和真 (東京大学)
10:54	V206b HSC 大規模画像データの PSF 測光 小宮山裕 (国立天文台)	13:54	V216b 可視光ファブリ・ペロー分光撮像装置 LISS の開発：西はりま天文台 2.0m なゆた望遠鏡への搭載 小久保充 (東京大学)
10:54	V207b 木曾超広視野高速 CMOS カメラ Tomo-e の開発 – 基本設計の完了 酒向重行 (東京大学)	13:54	V217b sCMOS カメラによる太陽全面 H α 観測 花岡庸一郎 (国立天文台)
10:54	V208b 木曾超広視野高速 CMOS カメラ Tomo-e のバックエンドデータ転送システムの設計と評価 大澤亮 (東京大学)	14:06	V218a RAVEN プロジェクト延長の結果 大屋真 (国立天文台)
11:06	V209a 木曾超広視野高速 CMOS カメラ Tomo-e のイメージセンサ評価試験 菊池勇輝 (東京大学)	14:18	V219b RAVEN: 多天体補償光学を用いた場合の視野内での PSF の一様性の評価 大野良人 (東北大学)
11:18	V210a 木曾超広視野高速 CMOS カメラ Tomo-e による TNO 掩蔽現象の探索 有松亘 (国立天文台)	14:18	V220b 木星面模様を利用した波面測定実験 合田周平 (北海道大学)
		14:18	V221b 太陽補償光学系の開発と補償効果のシミュレーション (2) 三浦則明 (北見工業大学)
			V222c 飛騨天文台における多層共役補償光学系の開発 三浦則明 (北見工業大学)
			V223c 西はりま VTOS によるスペckル観測とデータ処理 桑村進 (北見工業大学)

14:30	V224a WFIRST-AFTA コロナグラフ用偏光補正デバイスの設計 村上尚史（北海道大学）	09:54	V236a 地球型惑星検出のためのすばる赤外線ドップラー分光器 IRD の開発 : 10 小谷隆行（アストロバイオロジーセンター / 国立天文台）
14:42	V225a サバール板横シヤリングナル干渉計による原始惑星系円盤観測の計算機シミュレーション 米田謙太（北海道大学）	10:06	V237a IRドップラー観測用光周波数コムの特 性評価 森貴宏（東京農工大学 / 国立天文台）
14:54	V226a Low-contrast Pre-Coronagraph(LPC) と Speckle Area Nulling(SAN) 西川淳（国立天文台）	10:18	V238a 大型低温重力波望遠鏡 KAGRA: 全体 報告 端山和大（大阪市立大学）
15:06	V227a 瞳再配置型光学系による位相マスクコ ロナグラフの実証実験 赤岩夏海（北海道大学）	10:30	V239a 大型低温重力波望遠鏡 KAGRA の補 助光学系の開発 VI 阿久津智忠（国立天文台）
15:18	V228b OASES: TNO 掩蔽同時検出プロジェクト 有松亘（国立天文台）	10:42	V240a 大型低温重力波望遠鏡 KAGRA にお ける懸架系の開発 藤井善範（東京大学）
15:18	V229b FITE: スターカメラ用星像中心検出プロ グラムの高速化 伊藤哲司（大阪大学）	10:54	V241a 重力波望遠鏡 KAGRA における multi- messenger 観測への対応 正田亜八香（国立天文台）
15:18	V230b 宇宙赤外線背景放射の観測ロケット実 験 CIBER-2 新井俊明（東北大学）	11:06	V242a Nano-JASMINE と小型 JASMINE の全 般的進捗状況 郷田直輝（国立天文台）
15:30	V231b JVO ポータル開発の進捗 : 第一版の 現状と第二版の試用版の公開 白崎裕治（国立天文台）	11:18	V243b 小型 JASMINE による巨大ブラックホー ル進化の解明のための解析手法 矢野太平（国立天文台）
15:30	V232b JVO ALMA アーカイブの天体同定 (I) 江口智士（福岡大学）	11:18	V244b 小型 JASMINE 光学系の詳細な熱歪 み解析 3 鹿島伸悟（国立天文台）
15:30	V233b DARTS/AKARI データの恒久アーカイ ブ化と利用促進 吉野彰（宇宙航空研究開発機構）	11:18	V245b 小型 JASMINE 衛星の検出器ボックス の熱環境実証試験 白旗麻衣（国立天文台）
9月11日（金）午前・H会場		11:30	V246a Nano-JASMINE データ解析の end to end 試験 山田良透（京都大学）
09:30	V234a 近赤外線高分散分光器 WINERED: high-blazed echelle grating を用いた超 高分散化 大坪翔悟（京都産業大学）		
09:42	V235a 国産の市販 InGaAs 近赤外線イメージ センサー冷却評価試験 中屋秀彦（国立天文台）		

V3. 観測機器

9月11日(金) 午後・H会場		9月10日(木) 午前・I会場	
13:30	V247a 東京大学アタカマ天文台 TAO6.5m 望遠鏡の建設進捗 吉井讓 (東京大学)	10:54	V301a 硬X線偏光検出器 PoGOLite の読み出し回路の改良 大橋礼恵 (広島大学)
13:42	V248a 近赤外線2色同時多天体分光撮像装置 SWIMS の開発進捗と運用計画 小西真広 (東京大学)	11:06	V302b すざく衛星搭載 CCD カメラ XIS 検出器の高エネルギー帯域における較正精度の評価 楠絵莉子 (宇宙航空研究開発機構 / 東京大学)
13:54	V249a 中間赤外線二視野同時撮像分光装置 MIMIZUKU の開発進捗と運用計画 上塚貴史 (東京大学)	11:06	V303b すざく衛星搭載 CCD カメラ XIS 検出器に生じた電荷漏れの影響と対策 水本岬希 (宇宙航空研究開発機構 / 東京大学)
14:06	V250a 超広視野初期宇宙探査衛星 WISH 計画 山田亨 (東北大学)	11:06	V304b すざく天体カタログの開発 II 山崎廣樹 (東京大学 / 宇宙航空研究開発機構)
14:18	V251a 惑星間ダスト雲外からの宇宙赤外線背景放射観測 -EXZIT/ ソーラー電力セイル計画の現状 - 松浦周二 (関西学院大学)	11:18	V305b SPring-8 におけるマイクロパターンガス偏光計の性能評価 早藤麻美 (理化学研究所)
14:30	V252a 次世代赤外線天文衛星 SPICA : プロジェクト再定義 芝井広 (大阪大学)	11:18	V306b ISS 搭載用 GRB 偏光度検出器の開発と性能評価試験 岸川達哉 (山形大学)
14:42	V253a 次世代赤外線天文衛星 SPICA : システム技術検討 中川貴雄 (宇宙航空研究開発機構)	11:18	V307b PolariS 搭載用硬X線撮像偏光計の開発 : 新構造モデルの製作 Kim Juyong (大阪大学)
14:54	V254a SPICA 搭載 中間赤外線観測装置 SMI : プロジェクト再定義への対応 金田英宏 (名古屋大学)	9月10日(木) 午後・I会場	
15:06	V255a Grating-SAFARI - A SPICA far-IR spectrometer with improved capabilities 土井靖生 (東京大学)	13:30	V308a 有限要素熱解析による Cu/Bi 多層膜吸収体を用いた超電導遷移端型マイクロカロリメータのパルス波形の検証 野田博文 (理化学研究所)
15:18	V256a Development of ultra-low noise TESs onboard SPICA/SAFARI 鈴木仁研 (SRON)	13:42	V309a 超伝導 TES カロリメータを用いた K 中間子原子 X 線の精密分光プロジェクト(2) 山田真也 (首都大学東京)
	V257c 次世代赤外線天文衛星 SPICA : 望遠鏡と焦点面観測装置 片坐宏一 (宇宙航空研究開発機構)	13:54	V310a ダークバリオンの探査ミッション DIOS 開発の進展状況 山崎典子 (宇宙航空研究開発機構)
		14:06	V311a 汎用4回反射型 X 線望遠鏡の提案 田原讓 (名古屋大学)

14:18	V312b 小型衛星計画 DIOS 搭載 4 回反射型 X 線望遠鏡開発の現状 馬場崎康敬 (名古屋大学)	15:18	V324a SOI 技術を用いた新型 X 線撮像分光器の開発 11: 基本性能の温度依存性について 玉澤晃希 (東京理科大学)
14:18	V313b 次世代 X 線望遠鏡のための CFRP ミラーフォイルの開発 IV 杉田聡司 (愛媛大学)	15:30	V325a SOI 技術を用いた新型 X 線撮像分光器の開発 12: 開発の現状 松村英晃 (京都大学)
14:18	V314b Ir レプリカ X 線反射鏡製作と Ni トップレイヤーの性能評価 吉川駿 (名古屋大学)	9 月 11 日 (金) 午前・I 会場	
14:30	V315a ASTRO-H 搭載軟 X 線撮像検出器 SXI の現状 中嶋大 (大阪大学)	09:30	V326a ASTRO-H 搭載 精密軟 X 線分光装置 SXS の開発の現状 XIV 辻本匡弘 (宇宙航空研究開発機構)
14:42	V316a 軟 X 線から硬 X 線の広帯域を高感度で撮像分光する小型衛星計画 NGHXT の現状 (2) 森浩二 (宮崎大学)	09:42	V327a ASTRO-H 搭載 精密軟 X 線分光装置 SXS 用ヘリウム排気系の開発現状 石川久美 (理化学研究所)
14:54	V317b ASTRO-H 衛星搭載軟 X 線撮像検出器 SXI における電荷転送効率の評価とその補正結果 森浩二 (宮崎大学)	09:54	V328a Ray-tracing による ASTRO-H 搭載軟 X 線望遠鏡の結像性能の再現 佐藤寿紀 (首都大学東京)
14:54	V318b ASTRO-H 搭載軟 X 線 CCD カメラの応答関数の構築 井上翔太 (大阪大学)	10:06	V329a ASTRO-H SXT 用反射鏡の M 吸収端付近の反射率測定 倉嶋翔 (首都大学東京)
14:54	V319b ASTRO-H 搭載用 X 線 CCD カメラ (SXI) の Si-K edge 前後のレスポンスの研究 丹野憧麿 (東京理科大学)	10:18	V330a ASTRO-H 衛星搭載硬 X 線撮像検出器 (HXI) の現状打上げに向けて 中澤知洋 (東京大学)
15:06	V320b ASTRO-H 衛星搭載軟 X 線撮像検出器 SXI の検出効率測定 内田裕之 (京都大学)	10:30	V331a ASTRO-H 衛星搭載軟ガンマ線検出器の現状と解析ソフトウェアについて 高橋弘充 (広島大学)
15:06	V321b X 線天文衛星 ASTRO-H 搭載 X 線 CCD (SXI) 用のコンタミネーション防止膜 (CBF) の開発 吉野祐馬 (東京理科大学)	10:42	V332a 軟ガンマ線検出器環境試験データにおけるフラグ等を用いた動作検証 幅田翔 (広島大学)
15:06	V322b NGHXT 高角度分解能硬 X 線望遠鏡に向けた多層膜成膜について 佐治重孝 (名古屋大学)	10:54	V333a ASTRO-H 衛星搭載硬 X 線軟ガンマ線検出器における BGO アクティブシールドの応答関数の構築 大野雅功 (広島大学)
	V323c NGHXT に搭載する広帯域ハイブリッド X 線撮像分光器 WHXI の開発 (2) 鶴剛 (京都大学)	11:06	V334a 小型科学衛星 HiZ-GUNDAM 搭載を 目指した X 線撮像検出器の開発 (3) 吉田和輝 (金沢大学)

X. 銀河形成

11:18	V335a 初期宇宙探査 HiZ-GUNDAM 搭載へ向けた X 線撮像検出器の開発 米徳大輔 (金沢大学)	9 月 9 日 (水) 午前・E 会場	11:48	X01a 3次元輻射流体計算による非等方背景 輻射場中の球状星団形成過程の研究 安部牧人 (筑波大学)
11:30	V336a MPPC を用いた新型偏光検出器の開 発と性能評価 河合謙太郎 (金沢大学)		12:00	X02a COBE/DIRBE による近赤外線 1-5 μ m 系外背景光の再測定 佐野圭 (東京大学 / 宇宙航空研究 開発機構)
9 月 11 日 (金) 午後・I 会場			12:12	X03a Noise-based galaxy detection and segmentation Mohammad Akhlaghi (Tohoku Univ.)
13:30	V337a Cherenkov Telescope Array (CTA) 計 画: 全体報告 (9) 窪秀利 (京都大学)		12:24	X04a HSC photometry test using red- sequence galaxies 西澤淳 (名古屋大学)
13:42	V338a CTA 大口径望遠鏡初号機の光学系開 発状況と性能評価 林田将明 (東京大学)		12:36	X05b The Bright-End of the Galaxy UV Luminosity Function Revealed by the Subaru Hyper Suprime-Cam Survey 小野宜昭 (東京大学)
13:54	V339a CTA 大口径望遠鏡 カメラの開発状況 山本常夏 (甲南大学)		12:36	X06b Lyman Break 銀河スペクトル中に発見 された赤方偏移 3.3 の Damped Ly α system 馬渡健 (大阪産業大学)
14:06	V340a CTA 大口径望遠鏡 焦点面検出器の キャリブレーションシステム開発 猪目祐介 (甲南大学)		12:36	X07b クエーサー吸収線で探る $z=3$ 原始銀河 団内の中性水素と重元素ガス 向江志朗 (東京大学)
14:18	V341a CTA 大口径望遠鏡初号機搭載読み出 し回路の開発 武田淳希 (山形大学)		X08c レンズクエーサーを用いた多視線分光 観測による CGM の空間分布調査 小山田涼香 (信州大学)	
14:30	V342a GRAINE 計画 :2015 年豪州気球実験 報告 高橋覚 (神戸大学)		9 月 9 日 (水) 午後・E 会場	
14:42	V343a GRAINE 2015 年度豪州気球実験多段 シフター解析 水谷深志 (神戸大学)		15:00	X09a 非平衡化学反応を考慮した銀河シミュ レーションによる多相星間ガスの性質 馬場淳一 (東京工業大学)
14:54	V344a 皮膜に網をかぶせた長時間飛翔用 スーパープレッシャー気球の開発 (NPB5-1) 斎藤芳隆 (宇宙航空研究開発機構)		15:12	X10a 4000 Å ブレイクの強さと星質量に対す る分子ガスの割合との関係 II 諸隈佳菜 (国立天文台)
15:06	V345a 電子飛跡検出型コンプトンカメラ (ETCC) による Point Spread Function の設定と感度算出法 谷森達 (京都大学)		15:24	X11a The FMOS-COSMOS survey: Exploring the ISM properties of high- z active galaxies 柏野大地 (名古屋大学)

15:36	X12a	$z \sim 0.9$ の AKARI-FMOS 赤外線銀河の星質量 - 金属量 - 星形成率関係 大井渚 (宇宙航空研究開発機構)	10:06	X23b	$z \sim 4$ における銀河サイズとダークハロウの関係 岡村拓 (東京大学)
15:48	X13a	階層的化学進化モデルによる r 過程元素の中性子星連星起源説の検証 小宮悠 (東京大学)	10:06	X24b	すばる / HSC とハッブル望遠鏡で探る $z \sim 4-7$ の銀河・ダークハロウ関係 播金優一 (東京大学)
16:00	X14b	銀河形成モデルで探る星間ガスの宇宙論的進化史 真喜屋龍 (東京大学)	10:06	X25b	4 つの Hubble Frontier Fields 銀河団の質量分布モデルの構築 川俣良太 (東京大学)
16:00	X15b	化学進化シミュレーション用ライブラリ CELib の開発 斎藤貴之 (東京工業大学)	10:18	X26a	ダストサイズ分布の進化の統計的予言とその減光曲線進化への応用 平下博之 (台湾中央研究院)
16:00	X16b	星の年齢 - 速度分散関係に対するシミュレーション分解能の影響 熊本淳 (東北大学)	10:30	X27a	ダストのサイズ分布を考慮した銀河内でのダスト形成シミュレーション 青山尚平 (大阪大学)
16:12	X17a	AGN feedback to low-mass galaxy formation at high redshift 菊田智史 (総合研究大学院大学)	10:42	X28a	ダスト存在下での輻射性フィードバックにおける輻射圧と光電離の役割 一色翔平 (北海道大学)
16:24	X18a	JVN による複数銀河核の高空間分解能探査観測: 低赤方偏移の電波銀河 日浦皓一郎 (北海道大学)	10:54	X29a	大質量銀河における低質量星によるダスト加熱と受動的進化 鍛冶澤賢 (愛媛大学)
16:36	X19a	$z \sim 3$ の QSO9 天体で探る超巨大ブラックホールと母銀河の共進化 斎藤祐理子 (総合研究大学院大学 / 国立天文台)	11:06	X30a	$z \sim 0-3$ の星形成銀河のダストジオメトリー: 新しい紫外減光モデル 日下部晴香 (東京大学)
9月10日(木) 午前・E会場			9月10日(木) 午後・E会場		
09:30	X20a	Cold dark matter モデルにおける cusp-core 問題と too-big-to-fail 問題の関連性 加藤一輝 (筑波大学)	13:30	X31a	北黄極ディープサーベイ領域の Dust Obscured Galaxies の物理的性質 松原英雄 (宇宙航空研究開発機構)
09:42	X21a	ダークハロウ面密度の普遍性とダークマター理論への制限 林航平 (東京大学)	13:42	X32a	WISE と SDSS を併用した Extremely IR luminous Dust Obscured Galaxies 探査 鳥羽儀樹 (愛媛大学)
09:54	X22a	Connecting dark matter halos with massive galaxies in the BOSS survey 斎藤俊 (東京大学)	13:54	X33a	SXDF-ALMA 1.5 arcmin ² deep survey. A compact dusty star-forming galaxy at $z=2.5$. 但木謙一 (Max-Planck-Institut fuer extraterrestrische Physik)

			9月11日(金) 午前・E会場
14:06	X34a	ALMAによるSDP.81の高分解能観測 I. - 30ミリ秒角画像でさぐる重力レンズ銀河の中心質量分布 田村陽一(東京大学)	09:30 X45a 100億光年かなたの宇宙に死にゆく銀河を発見 谷口義明(愛媛大学)
14:18	X35a	ALMAによるSDP.81の高分解能観測 II. - 重力レンズされた $z=3.042$ サブミリ波銀河の分子ガスクランプの性質 廿日出文洋(国立天文台)	09:42 X46a Morphological Properties of Lyman α Emitters at $z = 4.86$ in the COSMOS Field 小林正和(愛媛大学)
14:30	X36a	SMGs with extremely red optical/near-infrared colors revealed by ALMA Soh Ikarashi (Kapteyn Astronomical Institute, University of Groningen)	09:54 X47a The ALMA Patchy Deep Survey: A blind search for [CII] emitters at $z \sim 4.5$ 松田有一(国立天文台)
14:42	X37b	Herschel 宇宙望遠鏡分光データの stacking 解析によるサブミリ波銀河の物理化学状態の制限 山口裕貴(東京大学)	10:06 X48a 多波長データ解析による $z \sim 3-4$ Ly α Blob 周辺環境の解明 斎藤智樹(国立天文台)
14:42	X38b	ALMAで迫る遠方星形成銀河のダスト放射性質 藤本征史(東京大学)	10:18 X49a MOIRCSによる $z=2.3$ 原始銀河団 HS1700 領域の [OIII] 輝線天体探査 田中壺(国立天文台)
14:42	X39b	遠方銀河の星形成史: Second (or more) star-burst の銀河を調べる手法 日下部晴香(東京大学)	10:30 X50a 赤方偏移3から6にわたる無バイアスな原始銀河団探査 利川潤(国立天文台)
14:54	X40b	SPH-based Ly α 輻射輸送コードの開発 鈴木裕行(筑波大学)	10:42 X51a Hubble Legacy Data で探る $z = 0 - 10$ 銀河形態進化 澁谷隆俊(東京大学)
14:54	X41b	A Close Comparison between Observed and Modeled Ly α Lines for $z \sim 2.2$ Lyman Alpha Emitters 橋本拓也(CRAL-Observatoire de Lyon)	10:54 X52a クランピー銀河の割合の環境依存性 村田勝寛(名古屋大学)
14:54	X42b	赤方偏移9を超える重力レンズ銀河候補からの CIII]1909 輝線強度予想 井上昭雄(大阪産業大学)	
15:06	X43a	SSA22 領域における Large EW(Ly α) LAE の staller component 大塚拓也(東北大学)	
15:18	X44a	Diffuse Ly α Halos around High- z Star-Forming Galaxies 百瀬莉恵子(国立天文台)	

Y. 天文教育・その他

9月9日(水) 午前・B会場			
11:00	Y01a	CANDY ROCKET PROJECT とその教育普及効果 阪本成一 (国立天文台)	12:24 Y14a 病院や社会福祉施設等における、「星空」を媒介としたコミュニケーションイベントの可能性 鈴木裕行 (筑波大学)
11:12	Y02a	4次元デジタル宇宙ビューワー「Mitaka」 加藤恒彦 (国立天文台)	12:36 Y15a 新聞にみる天文の表象 中村理 (早稲田大学)
11:24	Y03a	温室効果検出への挑戦 . I. よくある誤解と室内実験の問題点 土橋一仁 (東京学芸大学)	12:48 Y16b 大学生の銀河に対する認識の一例と国立天文台 4D2U プロジェクト映像による解決案 倉山智春 (帝京科学大学)
11:36	Y04a	温室効果検出への挑戦 . II 実験器の試作 下井倉ともみ (東京学芸大学)	12:48 Y17b 科学コミュニケーションの新たな可能性を探る試み～天文学と茶道～ 浅見奈緒子 (日本教育大学院大学)
11:48	Y05b	天体の日周運動と年周運動の理解を促進する教材の開発(3) 濤崎智佳 (上越教育大学)	12:48 Y18b 地域連携を通じた教育普及・科学史調査 - 日本の宇宙開発発祥の地、国分寺市の場合 阪本成一 (国立天文台)
11:48	Y06b	全天モニタ画像用座標校正ソフトウェアの開発 小澤友彦 (紀美野町文化センター)	13:00 Y19b 日本惑星協会の再発足について 吉川真 (宇宙航空研究開発機構)
	Y07c	アジアの星物語にもとづくプラネタリウム教育教材の製作 福田尚也 (岡山理科大学)	13:00 Y20b 大阪市立科学館の天文展示の25年 渡部義弥 (大阪市立科学館)
	Y08c	ブラックホールを題材にした天文教育ネットワーク 大西浩次 (国立長野高専)	
11:48	Y09b	アーティストインレジデンス in 国立天文台野辺山 衣笠健三 (国立天文台)	9月9日(水) 午後・B会場
	Y10c	美術館の「宇宙をみる眼 --- アートと天文学のコラボレーション」企画に於けるアーティストインレジデンス in 国立天文台野辺山 大西浩次 (国立長野高専)	15:00 Y21a 「天文教育・その他」の論文はどこに投稿すればよいのか？(III) 縣秀彦 (国立天文台)
	Y11c	美術館でのアートと天文学のコラボレーション 大西浩次 (国立長野高専)	15:12 Y22a キトラ古墳天文図の観測年代と観測地の推定 相馬充 (国立天文台)
12:00	Y12a	「銀河学校」と「もし天」、その他天文学実習の連携についての考察 三戸洋之 (東京大学)	15:24 Y23a 赤色巨星は赤いのか！？ 西本英里菜 (大阪教育大学)
12:12	Y13a	多層な参加者の交流促進を目的としたポスターセッションの実践と分析 玉澤春史 (京都大学)	15:36 Y24a 高校地学で分かる食連星の物理量の考察 佐々井祐二 (津山工業高等専門学校)
			15:48 Y25a ぐんま天文台における高等教育 橋本修 (ぐんま天文台)

2015年8月20日発行

年会実行委員会

委員長	佐藤文衛	(東京工業大学)
委員	石川遼子	(国立天文台)
	酒井剛	(電気通信大学)
	左近樹	(東京大学)
	鈴木知治	(中部大学)
	鈴木竜二	(国立天文台)
	寺田幸功	(埼玉大学)
	永井洋	(国立天文台)
	諸隈智貴	(東京大学)
	中道晶香	(京都産業大学) 保育室担当

年会開催地理事

須佐元 (甲南大学)